

大隅城

第九號

明治四十二年七月十五日發行

松城第九號目次

○龍門瀧繪

島津會長の歐米漫遊を送る

○論說四
○氣骨論

○我村の繁榮策(續)

○加治木と商工業

通信一六

○ロンドンより

○牛莊だより

○英領ヴィクトリヤより

○竈改良

○井底蛙言(二二)

●同鄉會春季總會●村勢狀況●加治木村民の負擔額●

雜纂二一

○濱田生

○小濱重吉

○小野助四郎

○池田孤案

○鳥子

○藻

○二五

○數件

○會報二八

○讀者の聲

○四五

○會邦四六

○會員の動靜

○會則修正

○委員選舉

○本會の基本金寄

○附者氏名錄

○第九回申込順

○雜誌代領收

○寄贈書目

○本會規則摘要

○會告

龍門瀧



松城第九號目次

目 錄

○龍門瀧

島津會長の感謝漫遊を送る

論 説

○第骨陰

○我村の繁榮繁榮

○加治木と商工業

通 信

○ロンデンより

○牛莊だより

○英領ヴァイクトリヤより

雜 築

○舟底柱言(二)

詞 藻

○漢詩○和歌

雜 報

○同鄉會春季總會

○村勢狀況

○加治木村民の負擔額

鳥 子

○數件

會 報

○會員の動向

○會則修正と委員選舉

○本會の基本金寄

○附者氏名錄

○第九回申込順

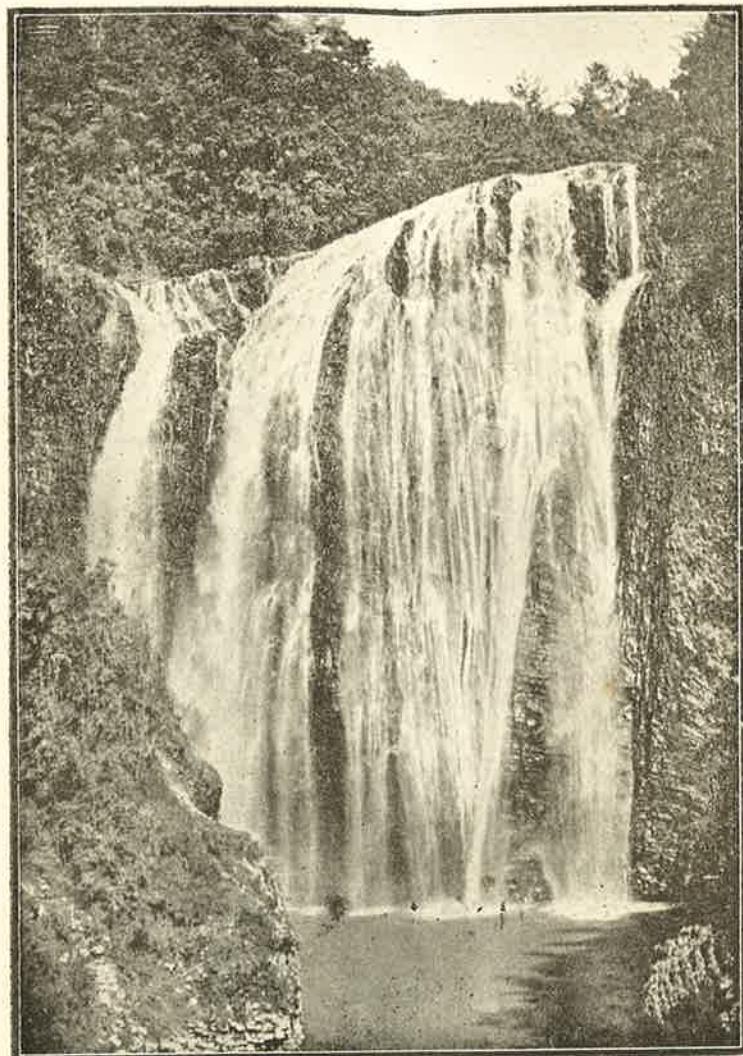
○雜誌代領收

○寄贈書目

本會現則摘要

會 告

龍門瀧



島津男爵の受賞・松下博士の厚意・木村吏員の異動・
本村内各小學校教員運動・教員と學務委員の縣外視察
教育會と慰勞親睦會・郵便局長の交迭・東京通信社
城同交會・小學校教員講習會・村教育家の名譽・勤積
教員に慰勞金贈與・松方侯の歸省・照國神社正遷宮式
と五十年祭・島津男爵御家族墓參・龍門庵祝宴・矢掛
隧道填坑貫通・志布志中學校の開校・中野小學校落成
祝賀・加治木の海軍紀念日・春季招魂祭・島津會長の招
待・警察電話架設・後藤誠信大臣の來縣・袖木代議士
の慰勞と姶良郡大懇親會・加治木驛の赤帽・島津男爵
送別會・多額納稅議員の補欠選舉・島津男爵發光景・
龍門庵・溝上翁に對する美譽・性應寺の御遠忌執行・
松街實業俱樂部の招待會・入學と卒業・鄉友會・加治木
部の昨今・產米檢查實施・加治木驛内の果物賣・美事
●錦江義會決算報告△編輯日誌

○龍門瀧

島津會長の感謝漫遊を送る

論 説

○第骨陰

○我村の繁榮繁榮

○加治木と商工業

通 信

○ロンデンより

○牛莊だより

○英領ヴァイクトリヤより

雜 築

○舟底柱言(二)

詞 藻

○漢詩○和歌

雜 報

○同鄉會春季總會

○村勢狀況

○加治木村民の負擔額

鳥 子

○數件

會 報

○會員の動向

○會則修正と委員選舉

○本會の基本金寄

○附者氏名錄

○第九回申込順

○雜誌代領收

○寄贈書目

本會現則摘要

會 告

枕城第九號

島津會長の歐米漫遊を送る

(六月二十一日郷友會事務所に於ける送別會上席にて朗讀せしもの)

久賀島津男爵閣下、見學のため歐米に遊ばんとし近く行途に上られんとす。吾曹父祖代々恩澤に浴せし舊主公の裔、現にわが枕城同郷會の會長として眷顧を蒙りつゝある者豈に此行を盛にし併せて一言の辭ながるべけんや。

思ふ、封建の治擅れて立憲の制となり、鎖國の長夢破れて開國の端開かれてより此に四十年、往年蕞爾たる東洋の一孤島は今や一躍して世界強國の班に列するに臻れり。今にして往時を追想すれば人時の變轉寔に無限の感懷なき能はざる也。

夫れわが日本の今日あるに到りし所以のもの、氣運の促す處自ら然りしものありしと雖抑も亦わが國民が時勢の潮さす處開國の急務なるを悟り、外交の必須なるを察知し、かの長を探りてわが短を補ひ孜々倦まざりしによらずんばあらず。

然矣、かの西歐文明の薈が一度わが國に移植せらるゝや、培養掬育の妙自ら燦たる美花を開き、馥郁たる芳香を發するに至りし也。一千五百有餘年炳乎として大和民族歴史の根本義たるわが國特有の國民精神が其銳利たる批評眼と、强大なる同化力と相俟ち

て今日の盛を致し、開國の實を擧げたるに外ならざる也。

然りと雖西歐の文明は日に進みて息まず。有形無形共に常にわが先進たり、而して利害の相容れざる處各國陽に平和の主義を標榜して陰に相嫉み相覗ぎ、虎視眈々として寧日なきの状宛として當年わが群雄割據の時代を睹るの感なくんばあらず。今にして一片隋氣のバチルスわが國民の間に潜入せんか、病毒の播延する處國民の元氣ために消沈し、萎靡惱療復起つ能はざるに至らん。果して然らばわが國現今の急務たる常に民人の志氣を鼓舞し、元氣を振作し、敢取勇往、その物質的方面なると精神的方面なるとを問はず、常に文明の魁となり世界の上にわが大和民族の雄大なる國民的理想を行ふの覺悟を養成するにあり。

是れが理想を實現せんとす、常に世界文明の實狀を觀察し、眞相を研究し自己を開發するを以て當面の急務となす。

公は夙に聰明の資、重厚の徳を以て、學を早稻田の講堂に修め、誠心正意公共のために計劃し、特にわが郷福祉のために企圖せられたるもの吾人が感激措く能はざる處也。

今や今日の成に安せず、遠く西歐の文明諸國を歷覽し以て他日に資する處あられんとす。

遠大の抱負、有爲の壯心、華胄の裔多く無爲軟弱の徒を見るの時、此に向上の意息をわれ等の意をいたる處也。

聞く、公は世界文明の中樞たる英國に其遊學の大半日月を過さんとすと、これ亦大にわれ等の意をいたる處也。

抑も英國は其實力に於て正に世界の第一等國にして其理想を世界に行ふと稱するアンゴロサクソン民族の雄大なる抱負と、其何物の非理にも屈せずとする剛健なる意志と心衿りとは所謂ゼンツルマンのモットーをなし世界の紳士微ふて以て品性陶冶の標本となす處にあらずや、公にしてかの地に止まること一年、親しくその社會万般の實況に接し、碩學多才の士と交らんかその識見の上に於て、其性格の上に於て得らるゝ處大ならんと疑を容れず、而して後他の文明諸國を歴訪さるゝに於ては其觀察の上に資せらるゝ處些少ならず、期満ちて公を鹿児島の埠頭に迎ふるの日公が英姿ます／＼颯爽、公が性格いよ／＼玲瓏、その抱負をわが社會人文の上に行はるゝの日必ず刮目して見るべきものあるを信じて疑はざる也。

時乎、盛夏、青々たる綠樹鬱蒼として心氣轉々爽なるの時、歐山米水は笑ふて公を迎へむ。鵬程萬里、煙波浩蕩たる大洋は公が氣宇を宏闊にせし。行け、行きて限りなき壯心を適處に試みよ、冀くは邦家民生のため自重せられよ、世界人文のため自愛せられよ。終に臨み、同郷會は公が故國を距の後と雖協心和力事に當り後顧の憂なかるべし、幸に意を勞せらるゝ勿れ、聊も蕪辭を陳して送別の辭となす。

氣骨論

論 説

京都醫科大學教授醫學博士 松下禎二

松下博士は薩摩國川内の出身にして、現に京都の醫科大學の教授たり、「氣骨論」は忙中筆を執りて特に本誌のために寄稿せられたるもの也、一讀博士の風手を想見すべし。

吾人の身體を支柱するに骨あるが如く吾人の精神を支柱するに亦骨あり之を氣骨と云ふ前者は主として石灰質よりなり後者は武士道より成立す氣骨軟弱なるか若くは之を缺如するを無骨武士と稱す、

史を繙き我か薩隅日三州の健兒の跡を窺ふに常に氣骨稜々として骨なきもの一もあるなく其地の僻隅に位するに關せず三十年の往昔より竊かに大八州の死命を制し豊太閤の威を以てするも我三州健兒の鼻息を窺ふに汲々たりき加之明治の聖代は實に我三州健兒の所爲なりと斷言するも敢て憚る處なし、

斯く我健兒は古今を通トで武士道の粹を蒐め氣骨常に稜々たるものありき然るに明治十年の亂後慮らざるの災厄悪奸の爲に謀られ彼等は漸次三州健兒を逐ひ遂に再立つこと能はざらしめんとす慨嘆するも亦及ばず、

古來特色ありし我三州健兒の教育の任に當る者夫れ誰ぞ三州の往時に於ける偉を妬み方今之衰微を喜ひ且つ其虛に乗して氣骨を拔出し「骨無し武士」に化せしめんと欲するの徒亦勘しどせず某中學校長の如きは吾人の崇拜する事と神佛も及ばざる底の西郷大久保両翁を罵倒し且つ生徒に其崇拜の非を教へたるも健兒中獨り之に抗するものあるなく傍若無人の振舞をなし益々其威を逞ふし薩州隼人の骨を拔かむとすと聞く、又明治十年の役後惡奸等の謀適中し健兒は遠く逐はれ陸軍部内は長州若くは長州派のものにて動かすべからざる根底を作りたりと云ふ恐ひも亦餘りありと云ふべし斯く私事を悉に於けるは果して愛國家の所爲なるや我三州健兒の所爲は常に

整々堂々たりき公私の別嚴然たる者ありき、

三州外のものは或は喜ばむ往時の健兒が軟骨動物と變し遂に蛆虫の如き無骨虫に化して了らむ、然りと雖予は三州に於ける目今的情狀を視て集人の人否日本人として之を喜ぶこと能はず晝夜其挽回の策を苦心計劃しつゝあるものなり但し三州健兒の目下の狀態は是れ十年役後の反應に過ぎず徐つて假裝にして恰も猛虎の眠れるに均し故に其覺醒と共に猛進するや必せり然りと雖其睡眠若し永からむか遂に覺むることなくして地中の人と化せん故に吾人は其醒覺の一日も速からむことを希望して止まざるものなり、

記憶せよ健兒 惡奸の爲めに健兒は其發達を阻害せられ且つ薩藩出身の先輩は皆其當時毒舌に中り亦立つこと能はざるに至らしめられ加之後進者を誘掖するを忘れたるを、故に吾人は先輩の加護を得つことを得ず只だ天は己を助くるものを助く、

てう金言を確信し獨立獨行せざるべからず、予は幼少の頃は多少氣骨を有したるものゝ如く嘗て小學に學びしがき同學者連の争を鎮め且つ敵對者は我一人なりとて所罰を請ひしことありき然りと雖四圍の狀態は日に月に軟化を要求し今や蛆虫とならむとするの悲境に陥らんとす故に自ら武士道と稱する藥劑を服し氣骨を養ひ且つ

丈夫一たび志を決せば遂くべく死すべく決して中止すべからず

正義の下には死すとも悔ひす

世界は忍耐勉強者の所有なり
と叶ひ衰弱せる氣骨を興奮せしめつゝあり、
健兒よ若し幸に予ど感を同ふせば宜しく自重して英氣を養ひ無骨武士の譏を後世に貽すことなけれ、

龍門司燒は由緒あり光榮ある歴史を有す即ち舊藩主島津義弘公朝鮮征討より凱旋歸國の際彼の地より陶工を從へられしに起因せしもの而して曩には 東宮殿下御行啓の際は献上の光榮を蒙りしもの龍門司燒の光榮は永く後世に傳ふべきと同時に大に斯業の隆盛ヲ企劃して益々此光榮を發揚し以て我村の繁榮致富に資すべきなり龍門司燒の微々として振はざるは其原因畧製紙業に同し則ち資力の薄弱なるにあり資力の薄弱なるは改良進歩世の嗜好に投する能はざるにあり龍門司燒と山來を同々する彼の伊集院燒の如きは縣下に於ける陶界の霸王たらんとするもの彼は優勝劣敗場裡に驅逐して能く聲價を維持し銳意斯業の擴張を圖るに我は改良進歩世の嗜好に投する能はず彼は旭日冲天の勢あるに我は孤城落日の感あり前者は進取的奮闘的にして後者は退要的守舊的也盛衰興廢の岐るゝ所豈に由因なしせんや我輩は斯業者及村當局有志の奮起一番を切望す斯業者は須く從來の規模を改良し擴張し製品の精選を圖り以て廣く世の需用に應すべし而して製品改良の如きは特に老練なる教師を招聘すべし資金の如きは共同出資或は有力なる資本家に仰ぐも可也要は斯業者の覺悟如何にあり而して當局者は相當の援助を與ふべし即ち教師俸給の如きは村費を以て補助し獎勵するを可とす

陶器は我國の重要な貿易品として古き歴史を有す近時益面目を一新し大に活動せんとする趨向を見るに至れり統計は我輩に示すに去る三十四年の製品價格は六百有餘万圓なりしも三十八年に至りては八百八十二万圓に上れり我國陶器の最大輸出先は北米合衆國にて昨年は四百二十三万圓の巨額に達し全体の過半に上れり米國に次ぐ輸出先は清國也去る三十九年に清國に輸出せし製品價格は九十一萬圓に上れり殊に清國向きは急須、小皿、茶呑碗、手附茶呑碗、茶瓶、香爐等にして其價の廉なると多少支那向きに造られあるとに由り支那人の嗜好に投し居る云々之れ我村斯業者の注目すべき点にあらずや若し夫れ依然として舊跡を墨守し世の進歩に伴はざるときは由緒あり光榮ある龍門司燒は益々衰退遂に起つこと能はざるに至らん敢て斯業者及當局有志の猛省一番を促す、

(ハ) 鑄物業

加治木產の鑄物は聲價を博し世既に定評あり我輩は斯業者に一層の奮勵を切望す想ふに鑄物業者は製紙業及陶器業者に比し資力遙に豊富の人たらん故に斯業の擴張製品の改良精選の如き實行に易きは前者と同様の比にあらざるべし我輩は今鑄物につき統計的材料を得ることは能ざるを以て前途有望の事業たるや否やを斷言すること能はざるもの鑄物の如きは家庭に於ける日常必須品たるを以て内國に於ては益々其需用を増加すべきも決して減退するものにあらざるを信す鑄物業者に對しては我輩多言を費すの必要なし望む所は斯業者が世運の進歩に遅れざらんことを期し製品に注意し以て販路の擴張と需用の増加に力め加治木鑄物の聲價を益々發揚し以て我村の致富に貢献せられんことを、

(二) 製糸業

生糸は我國輸出貿易品中の最高位を占む去る三十九年の輸出額は一億一千万圓に上れり生糸の前途は實に有望也然りと雖も生糸の如き貿易品は世界の經濟と密接の關係を有す昨秋米國に起りしが如き財界の恐慌の來すあらば忽ち生糸の暴落を招くを以て斯業者の打撃を受くる甚大也故に製糸業の如きは資力豊富にして最も鞏固なる基礎の上に經營するにあらずんば一朝財界の不振を來たし生糸の低落を招ぐあらば斯業者の悲運に遭遇するは燈を見るよりも明也元來海外貿易品は一昂一低常に變動し易きを以て我國の重要な貿易品たる製糸業に從事せんと欲するものは特に資力の豊富を要す今や我村に於ては佐藤氏の經營に係る櫻島館製糸場のあるより更に製糸場設立の必要を見ず只だ櫻島館は個人の經營に係るを以て資力の豊否に就ては我輩聊か疑ひなき能はず聞く昨年生糸暴落の結果は櫻島館又多大の損耗を蒙り遂に廢業閉鎖の止むなき悲境に陥りしも幸ひにして助力者の輩の喰るを要せず佐藤氏たるもの一層の勇氣を鼓舞し之を小にしては我村の爲め之を大にしては國家の爲め努力一番斯業の大成を期せらるべし然り而して製糸業の盛衰興廢は直ちに國家經濟に至大的の關係を有するを以て

(八) 當局者は相當の援助を與ふべきの責務あると信す、

四、結論

以上我輩が製紙陶器鑄物及織糸業の大發展を企圖し以て我村の繁榮を講し致富に資せんと欲する所以のものは皆之れ既設の事業にして多少の智識經驗及資力を有するものなるを以て更に資金の豊富と共に規模の改良製品の精選販路の擴張を圖るは之れ實に時勢の進運に伴ひ我村現時の状態に適應したる好個の措置たるを信すればなり若し夫れ智識と經驗に乏しき事業を新興せんと欲せば勞費多くして恐くは功過相償はざるに至らん新事業企劃の如きは時勢の推移と共に自然に勃興時機到來を經て寧ろ既設の事業を銳意改良發展せしむるに如かず其他の繁榮策としては加治木村を縣下の遊樂園として龍門瀧に對する設備の如き猶改良すべき点むらん殊に鮎の如きは益々保護を加へ繁殖を圖り龍門鮎の名と共に龍門鮎の美味を天下に發揚せしむるも又遊客招致の方便なり或は黒川の温泉に相當の設備を加ふると共に黒川尻に海水浴場を設け廣く遊客を招致するの法を講ずるも可なり若し夫れ天下の奇山たる蛇尾岳の絶頂に展望臺を建設し昇降機を使用して遊客を昇降せしむるの方法を講せば更に妙なり黒川の海水に浴して天空海濶の度量を養ひ衣を千仞の蛇尾岳に振ふて剛健雄大の氣象を養ふ又可ならずや

想ふに肥薩鐵道全通の曉は時勢は急轉直下又今日の比にあらざるべし今に於て警醒一番我村百年の長計を確立し以て繁榮致富の途を講ずるは之れ豈に時勢の進運に伴ふ刻下の急務にあらずや徒らに桃原の春夢を貧り覺醒の機を失せば後日悔ふとも及ぶなけん奮起せよ同郷の諸君覺醒せよ我村の諸士、

や

此の稿を終へんとするに方り殖產工業獎勵に關する詔勅喚發せられたるの報に接す日本の弱点は實業幼稚なるにあり　陛下則ち新に國民の嚮ふ處を指導せらる宜しく聖旨のある處を奉體し安んじ奮勵努力せざるべけん

や

加治木村繁榮策は之れ實に重大なる問題なり余固と不才斯の如き大問題に對し率先單見を發表せしは寧ろ大膽の行爲則ち盲蛇人を恐れざる類乎余は尙事業の經營其他につき多少論せんと欲する所のものありしも身は之

れ萬里の異郷にありて統計的材料を得るの困難なるあり爲めに論旨或は時事に迂なるの点あるやも計られず郷を出でより既に五星霜故國の事情に疎き余に取りては又是非もなき次第なり文意又尽さざるの点あらば之れ余が無筆の致す所讀者余か微意を諒ど乞ふ不文の罪を恕せ

西曆千九百八年十月中院秋風蕭條として破窓より吹き入るの時稿を北米合衆國南加洲コロナドの客舍に屬す

加治木と商工業

重久定志

松城第六號に於て柳州逸史加治木繁榮策の謬見を批駁すとの題下に數千言ヲ尽して加治木が商業地として發展するの不可にして之れを企圖するの運動が畢竟徒勞に屬するを主張せらる余輩之れを讀み轉だ今昔の感に耐へず覺えず筆を探りて此の稿を草するに至る、

抑も肥薩鐵道の一部開通以來我が加治木は經濟的方面に於て日に月に衰へ錦江灣埠頭に輜輶せし漁船和船も今や其面影を止むるなし夫れ我が加治木なる地方小都會如何にして起り如何にして斯くは急速に衰傾せしか之れを説くに當り今余輩をして都會は如何なる理由條件の許に起り如何なる原因に基ひて衰傾するかを述べしめよ抑も都市は原始時代狩獵時代遊牧時代には其必要なく農業時代に於て始めて定住の民を生し田舎所謂村落を生し田舎は更に都會を生せしなり茲に於て始めて手工業農業の區別を生し一種族中に交換行はれ商業商工業時代となりて都市愈々發達するに至りしなり然らば何故に原始的集合團体たる村落が都市を分出せしめしか左に之れを述べん

一、外敵防衛の目的より、即ち日本の舊城下の如きにして國內統制の權力未だ充分に確立せざる時代には生命財產を保護するには王國主の城下は比較的安全なるが故に住民茲に集まり遂に都會となす

り旅館起り遂に都會をなす。

三、政治上の目的より、新開地たる北海道に於て札幌區等の如き開拓使廳其他單獨なる政廳の設置に起因する者

四、娛樂の爲めより、風光明媚又は温泉等の爲めに起る明石須磨の如し

五、學術研究の目的より、衛生に適し風俗純良の地に起る者にして彼の英國オックスホーリングブリッヂは其例なり

六、經濟上の原因に基き、今日の都府は概ね此の原因に基き發生し發達せる者なり然して其發達地は特種の物産に依りて起る者と通路系統の結節点に因りて起る者との二種あり

(一)特種物産の利に依り起る都府は(イ)生産原料の特產地(ロ)生産原動力の產出地

(二)貨物集散の便利により自然に發達する都府は(イ)河永路の結節点(ロ)湖水路の結節点(ハ)道路の結節点(ニ)陸路海路の結節点(ホ)鉄道の結節点

都府の起原及び發達地に就て述べる以上の如し

余輩不幸にして未だ加治本史を繕くの機會なく加治木が何れの條件に依りて起りしかば知らざれども要するに加治不^は古代口之町(目下の郷田瀧の近傍)に始り爾來今日に至れり然かして我が加治木が大隅一の都會とまで發達せしは之れ全く前記第六の要件中なる陸路海路の結節点に位し真幸菱刈地方の旅客貨物悉く加治木に輻輳し之れより海路鹿兒島に積送られ貨物旅客の運搬機關たる動物馬車和船汽船相互間の轉換行はれし故なり若し鐵道開通せざりしならば我が加治木は將來商業地として大なる發展をなせしならん、然るに一朝肥薩鐵道の一部開通するや單に貨物旅客の經過地となり經濟的都府を發生發達せしむる最要件たる運搬機關の交換の必要なさに至りて貨物の變裝改包を要せず從つて之れに從事する労働者を減ト又地方に於ては文化の進むに従ひ地方人士殊に農民一般にハイカラに流れ凶豊の差はあれども收益の一一定せる故郷の產業に從事するよりは都會に出で前途有望なる產業に從事せんとの理想を以て遂に大都會の經濟的吸引力に吸收せられ生產の要素たる壯

丁は漸次減少し遂に農家の生產力を減し從つて彼等の購買力を減少せしめる結果此等農民を唯一の顧客とする我が加治木商業が其他間接直接の原因を以て衰傾せしは余輩茲に述べざるども賢明なる諸君の既に熟知せらるゝ所なり

次に余は加治木商人の商業經營に就て一言せんに其の經營法の如何にも幼稚なるを感じず見よ加治木町メインストリートたる浦生田通に於て夜間の看板とも云ふべき街燈を掲げる所何軒あるや商店の價値を外部に表明するに於て吳服商洋物商に最適切なる店前裝飾を施せる所又夫れ何軒かある、激烈なる競争に勝ち多數の顧客を引くに必要な廣告法は如何、殊に此の廣告は商業經營に最も必要なる者にして數年前に於て「勿驚稅金タツタ二百万圓」の天狗煙草を知らざりし人はなく又今日仁丹が各地に販賣せられ又如何なる山間僻地の貧家と雖も必ず實母散が實丹の一包を藏する所以は其主因唯一に廣告の結果にあらずや然かれども余輩は田舎の農民を唯一の顧客とする我が加治木小規模の小賣商人に對し之れを勧め或は店輔の様式を西洋風にすべし間口を大にすべし廣告の爲めに商品陳列場を設くべし夜間顧客の入るを憚る質屋に對し小杉藥店の如きアセチリン瓦斯を點すべしと云ふにあらず何となれば幼稚なる經濟程度にある我が小賣商に於ては間口狭き方却て客の入り易く且つ店の繁昌するが如く見へ其の質素なるは却て信用を得るが故なり故に余は只之れ將來大に發展せんとする卸商其他有爲の商人に願ふのみ、特に吾人の切に望むは客に對し愛嬌あらんことなり、抑も我が縣の商業は大坂の勢力範圍(名古屋にて一分せられ以北は東京以南は大坂の勢力範圍と内國商業に於て普通見做さる)に屬するが故に其の經營法に於ても大坂式に一種の武骨無愛想なる所謂薩摩式を合せ用ひる故に自然客をして足を他店に向はしむ夫れ小賣業に於て東京が比較的大坂より成功せるは之れ全く客の待遇宜しきに依るならん東京に於ては客が自己の店に入らんとするや否や一聲「いらっしゃい」を放ち客をまんまと射止め其買ふて去らんとするや初めて買ふ客も常客の如く「毎度有難い」と之れを送り品なき時は「お生憎様」と愛嬌をこぼす之れに反し大坂にては「まーおはいり」と「まー」を附して入り度ければ入るべし厭なら去るべしその口調にて客に不快を感じしめ買ひ去るや「有難さん」品なき時^は「おまへん」と怒鳴る畢竟するに愛嬌の巧拙は客に快不快を感じしめ其の

營業に關するや大なり我が縣下は封建時代の遺風今猶存ト商人を賤む結果未だ十二三の中學の坊チヤン迄も商人を呼び捨てにして從て商人の客に對する愛嬌薄らぎしならんと信ず然かれども商人は一般民の需用品を供給し生産工業を發達せしめ國富を増すに缺ぐべからざる主体となる必要物なり敢て商人なりとて耻づること勿れ又之れを賤み之れを蔑視するは經濟程度の發達せる二十世紀の世上に通せず今猶封建時代の昔を夢る愚物なり抑も我縣が商業微々として振はず縣内會社數三三〇内商業會社は僅かに一として其資本金は縣内全會社總資金三五三三、三〇八圓の内僅かに三四一・二〇〇圓、銀行は本店五支店一(農工銀行を含む)資本金一八七〇、〇〇圓(拂込済にあらず)過ぎずして他府縣に比すべくもあらざるは勿論他に種々の原因はあれども之れ又封建時代の商業を賤む遺風が少くとも影響し居るならんか、古來我國の商人が下賤視されしは約束を守らざる点にある故に今日の商人は宜しく商業の資本とも謂ふべき信用を重んド以て經營されんことを望む、

商業に於て不振の状態に陥れる我が加治木は此後何に於て發展せしむべきか工業に於ては如何乞ふ余輩をして一言之れを述べしめよ、

抑も我縣は地勢上九州の西陬に僻在し交通運輸の便は纔かに縣内を縱貫せる一條の鐵路と鹿兒島灣の一港に因り依然内國貿易に甘んずるの状態にありて其工產品は一ヶ年の生産額七百二三十萬圓内外にて其重なる者は酒類(一四一万圓)、砂糖(一二二万圓)、生糸(四六万圓)、油類(三七万圓)、織物(三三万圓)、製茶(三一万圓)、醤油(二五万圓)、和紙(一八万圓)、陶磁器(七万圓)、疊表(六万圓)、錫器(五万圓)等にして人造肥料(六五万圓)、製革(四万圓)、煉瓦燐寸硝子の如きも近來の事業として起れり、然れども右の内、海外輸出品は僅かに生糸、陶器、製茶、木蠟、華蓮等にて四五十萬圓内外あるのみ其他は縣内の需用に應し或は小額縣外輸出を見る又其經營に於ても個人經營の小規模なる者にして毫も進歩の状態を見ざれども運輸交通上の機關完備せる曉には外部の刺戟と經濟状態とは其發達を促進するならんと確信す農商務省商工局の調査に依れば我縣の工產品中將來に望を屬せられ居るは只人造肥料製茶陶器製革業等にして他は品質數量其他に於て有望と認められるが如し、人造肥料は原料を支那朝鮮に又縣下、大坂、廣島より仰ぎ近來著しく其業務の擴張を見販路も漸次

縣外の需用增加し之れに從事する鹿兒島肥料合資會社川邊郡の平川氏及び本村の佐藤氏等相當の利益を得前途有望なるが如し、製糸は其製法幼稚にして未だ發達の域に至らず多くは農家の副業として番茶を主とし海外向きとして小量の綠茶製作せられ販路は縣内の消費を主とし次は大阪沖縄にして神戸横濱港を經て海外殊に天津に小量を出すのみ然かれども此業は原料に於て敢て不足を感することなき故只其製法に於て改良すれば海外の需用に從て有望なり、陶器に於ては其欠点とする所は價格比較的不廉なると品質脆弱畫工の技術進まざる爲め繪摸様の意匠巧妙ならざるにあり然かれども其原料たる粘土は潤澤にして而かも其粘土は船穀様の實象を顯出するに最も適し花瓶として横濱商人の手に依り英國及び豪洲に輸出せらる故に以上の欠点を改良するの曉には斯業の發達や大ならん目下市の慶出、隈元、伊集院の東郷に沈の諸氏之れが改良に苦心中なりと、生糸に於ては原料は縣下の產を用ひ敢て不足を感じることなく供給は常に需用を超過すと云ふ而して市の授產場第二部川内の渡邊、上野、川内の三製糸場及び本村の櫻島製糸場等稍々大規模に從事すれども其生産額比較的尠なく品質良好ならざる故に今後大奮勵を要す販路は京都福井等にして海外は米、伊、佛の諸國へ横濱原合名會社の手にて輸出せらるゝと云ふ、

以上余輩は我縣の工產品に就き論トたれども我加治木が果して此等の縣下工產品其他の工產品を產するに適するや否や、凡ろ工業地として將來發展せんとせば高價なる奢侈品の工業は別とし實用的手工業品に於ては原料を器械工業に於ては左の要素を熟慮せざる可からず

一、原料品は豊富なるや
二、生産原動力たる石炭水力ば如何、三、勞力職工を低き賃銀にて多數得ること容易なるや
而して右の内最重要問題は第一第二の要素にして其結果器械工業の發達地は

今日英國の工業發達せるは前者に依り北米合衆國南方露西亞及び我が九州北部の工業發達せるは後者に依る、
二、兩要素が接近せぬも其距離甚だしからず水路の連結ある所なり

茲に於て加治木の地勢上より觀察するに逆も器械工業地として大發展を爲す可き地にあらず。然れども小規模の器械工業及實用的手工業に於て生糸製茶陶器和紙の原料は附近に於て容易に得らるべく、又原動力に於ては自然の恩恵たる水力あり勿論某技師測量の結果時期に依り水量に增減わりて水力電氣は龍門瀑下只一ヶ所に於て得るのみなりと雖少しく設備を施さば有効馬力を得る所なきに非らず、且又肥薩鐵道完成の曉には筑豊炭山の石炭も容易に廉價を以て得らるべく、勞力に於ても、我縣下は生活程度低きが故に從つて賃金も低く、資本に於ても縣一般の商工業發達しつゝあれば確實に有望なる工業ならば之を得るは敢て難きにあらず、要するに我加治木は此後工業に於て稍々發展するの望あらんか、余輩の薄學淺才之れを斷言する能はず只之れ商業に比し有望と認むるのみにして工業發達の要素を具備せず又其地點にあらざる我村が世界的工產品を生產するに適すと云ふには非らず、要は實用的手工業、小規模器械工業につき稍々發展の望みありと謂ふに過ぎず。

工業經營に關し余輩の切に加治木人士の反省を促すは器械工業に於て其製作品の種類により工場附近の事物に往々損害を及ぼすことあり、故に公共的精神性に乏しき加治木に於て經營するは幾多の困難に逢遇することなきを保せず、夫れ彼の佐藤製糸場が西町にあるや附近の者煙突より出づる煤煙に付き抗議を申込み遂に之れを移轉せしめしに非らずや（移轉の原因は他にあるか知らねど）、熟慮せよ該製糸場の工女たる我加治木下級婦女子の收得金ろれ幾何ぞ、爲めに彼等の購買力を増加し加治木商業の繁昌幾分製糸場に負ふ處左きにあらず、然るに之れを移轉せしめし結果多額の固定資本を要し遂に全工場をして空しく他村人に譲渡經營せしむるの止なきに至らしめしとは、實に我加治木工業界の爲め遺憾に堪へざる処なり、願はくは我村の人士よ徒らに眼前の利益に迫まらず遠大なる目的を以て前途有望必要缺くべからざる産業は自治的公共團体なる一村に於て之を保護獎勵し或は村有地を貸與し或は補助金を興へ低利を以て資金を融通するの道を講すべし、何となれば斯ら産業を保護するは決して産業者其者を保護するに非らずして村に必要な否國家社會に必要な産業を保護すればなり、唯に之れ農業のみを保護獎勵するは自治的公共團体の一機關たる村會及村役場其者の採るべき策にあらず、

某論者曰く肥薩鐵道完成の曉には鹿兒島は外國貿易港となり從つて加治木も又商工業に於て一新局面を開くならんと、然かれ共之れ既に其假説に於て誤れり抑々政友會九州代議士會が鹿兒島に於て「鹿兒島を開港場となすに盡力すること」の決議は政友會員の鹿兒島に對する一つの御世辞に過ぎず、活眼を開いて日清戰後以來急遽の發展をさせる九州北部の商工業界を見よ門司あり若松あり又長崎あり然れども門司若松口ノ津三角は之れ石炭に於て長崎は海產物其他に於て漸く開港場たるの價值あるのみ、三井が巨万の金を投せし三池港も石炭に於て頃日既に輸出港となれり、然るに何の大きな輸出品なく何の輸入品をも要せざる我が鹿兒島を何の必要ありて財政整理に汲々たる我政府が巨額の金を投し貿易港となすの愚策をなさんや、

以上余輩は加治木商業を悲觀し工業に於て比較的發展の見解を以て論したれ共敢て農業林業牧蓄水產業を輕視したるにあらず、又加治木の風光を以て外客を誘ふに損失を蒙らざる範圍内に於ては相當の設備を爲すも可ならん、之れ前西園寺内閣が日本を外人の觀光地たらしめんとて日光奈良に其設備を爲したると相似て相當に得る処あらば又大に可なり、余輩は加治木繁榮策に付き愛郷の士充分に研究しろの高見發表せられんことを希望す、

統計數字は農商務省商工局調査報告及び鹿兒島縣勸業統計要覽（二者共に三十八年調査の者）并に鹿兒島縣治一班（四十年度）による

千鳥庵水巴女史

干渴にも白波立る千鳥哉

雲の上に聲はつかしき哉

通

信

ロンドンより

濱田生

ロンドン市

ロンドンは如何なる處なりやは、隨分六かしき問題なれども、單調なる洋館の究屈げに並べる様ば、正に櫛比鱗次の語を以て評す可く、禮服禮帽の諸聲翁と、蓬頭垢面の碧眼兒とが打交り、絡繹として往來する其間を繰ふて、行けともく町外づれに出でざる程、廣き處なりと云はば、先づは無難の説明ならんか、ロンドンの人口は約六百万、町の廣さは東西十四哩南北八哩、市内にある鐵道停車場は其數三百三十餘、公園の數十五にして、有名なるハイド、パーク一個處にても、其面積百町歩に餘ると云ふ、成る程世界一の都會と首肯するを得べし、隨つて倫敦の行政費が、近來年々七千萬圓内外なる事實も驚くに足らず、前年米國ニューヨークに在り今此ロンドンに在る、余の友人語りて曰く、市街の体裁と其設備より云へば、ロンドンは遠くニヨ

ーヨークに及ばずと、左もある可し、人の知る如く英人は元來保守の念に富むが故に、月進文明の利器を用ゆるに吝ならざると共に、又努めて舊物を舊物として保存するを好む、試みに之を市内の交通機關に就て觀し、地下には彼の最も進歩せる地下鐵道縱横に貫通し、日夜市民に向つて飛ぶが如くに迅速なる、交通の便を與ふるかと見れば、街路上には昔ながらの乗合馬車、今尚ほ其數決して少なからず、爲めに市街の美觀を傷ふこと夥だしきものあり、華奢を極むるニューヨークに比し、体裁の佳なるは其佳ならざるに優ること無論のことながら、此事毛頭もロンドンの聲價を傷くるの理由を見ず、否な莊重にして徒らに新奇の事物に向つて趨るを欲せざる、英人の美風が遺憾なく、此ロンドンの体裁と設備に於て發揮せられたるものなるを思へば、余は寧ろ之を喜ぶものなり、

親切なる國民

総て英人は禮儀作法正しく、丁寧親切なる國民なれば、偶々此處に滯留する吾々外國人をして、身の殆ど異國に在るを忘れしむ、諸官省に行きて役人に物を尋ねれば、彼は辭を卑ぶして懇切を盡して之を教ふ、是

れば彼等が吾々外國人に對する場合に於て、特に意を用ゆるに非ざるかの疑ひあるを以て、余は試みに之を某英人に問ひしに、内外人の間に些の區別もなしと云ふ、轉て商店に至り物を求むれば、此處にも亦商人の客に對するや、極めて鄭重なるものあるを發見すべし、特に巡査の内外人に對する態度の美しきこと、想像も及ばざる程なり、元來英國にては身長、五フヰント九インチ（約我六尺）以上のものに非ざれば、巡査に採用せざるの規定なれば、世に英國の巡査はと風彩の堂々たるもの少なかる可し、然かも日常市民に對して不職務を盡すに當り、其態度如何を觀るに、又世に英國の巡査ほど注意細かにして、親切なるものなきを思はず、巡査が暫し赤坊を抱けるを見ること敢て珍しからず、蓋し看護婦なるものが、病人に對する看護人なると同様に、巡査なるものは、一般人に對する看護人なて、巡査が暫し赤坊を抱けるを見ること敢て珍しからず、蓋し看護婦なるものが、病人に對する看護人なると同様に、巡査なるものは、一般人に對する看護人な

れるよしは、好く人の口にする所なれども、英國にて余の觀たる所を以てすれば、必ずしも然らざるが如し、如何にも國民一般の智識の程度は高きに相違なし、されど、所謂高等の教育を受けたるものは、其數割合に多からず、今大學教育に就て見るに、英國にはオックスフォード及びケンブリッヂ兩大學を始め、世界屈指の大學生少なからざれども、是等大學教育を受くる、學生の學費は非常の多額を要し、一學生一年の學費、我四五千圓に相當するは普通の事なり、是れには色々の理由あるとならんも、要するに斯く多くの學費を要するに於ては、子弟に大學教育を授くること、其父兄に取りては決して容易の事に非らず、されば英國に於て大學教育を受くるは、極めて少數の子弟に止まると云ふ、尤も此現象は英國のみのことには非ず、殊に所謂生存競争の激しきこと、獨立心に富むとの二理由よりし

て、子弟は其學校教育としては、専門なると否とを問城
(七十)

は、彼等が吾々外國人に對する場合に於て、特に意を用ゆるに非ざるかの疑ひあるを以て、余は試みに之を某英人に問ひしに、内外人の間に些の區別もなしと云ふ、轉て商店に至り物を求むれば、此處にも亦商人の客に對するや、極めて鄭重なるものあるを發見すべし、特に巡査の内外人に對する態度の美しきこと、想像も及ばざる程なり、元來英國にては身長、五フヰント九インチ（約我六尺）以上のものに非ざれば、巡査に採用せざるの規定なれば、世に英國の巡査はと風彩の堂々たるもの少なかる可し、然かも日常市民に對して不職務を盡すに當り、其態度如何を觀るに、又世に英國の巡査ほど注意細かにして、親切なるものなきを思はず、巡査が暫し赤坊を抱けるを見ること敢て珍しからず、蓋し看護婦なるものが、病人に對する看護人なると同様に、巡査なるものは、一般人に對する看護人なて、巡査が暫し赤坊を抱けるを見ること敢て珍しからず、蓋し看護婦なるものが、病人に對する看護人なると同様に、巡査なるものは、一般人に對する看護人な

を爲すの風なれば、英國人の學校教育程度は、比較的低しと云ふも過言に非ざるに、然るに智識の程度が一般に高くして、殆ど何人と雖も平易なる學問上の理屈を心得、時事問題の如きに向つても、分相應の解釋を下し得るの力ありと云ふ有様なるは、一般に新聞雜誌を讀ひの風盛なる其上に、到る處に公立圖書館の設けありて、平易必要的なる圖書を備へ、公衆の閲覽に供するが故に、朝夕俗間の俗事に從ひながらも、僅かの暇あれば自然に圖書に親しむに至るの風を致すが爲めには非ざるか、然らば彼等の學校教育の高からざる割合に、智識の程度低からざる所以は、全く社會上の設備、之をして然らしむるものと云ふを得べし（五月廿九日）

牛 莊 だ よ り

在清國牛莊橫濱正金銀行支店

小 濱 重 吉

前畧、今回此の地の人となりしより日尙ほ淺きに從て諸方面の觀察も十分に出来ず其の上行務繁忙の爲當地の清商に面晤して商況や金融事情等を委曲聽き取るの

機會も少く御報告仕る材料も之れなき次第に候へども赴任後見聞せし一端を可申上候

營口唯一の輸出品たる大豆及豆粕は昨秋の豊作なりし港は結氷仕候（毎年十一月下旬より翌年三月下旬迄當於て百四十万枚、大豆及雜穀六十余万石と申す未曾有の多額に達し從て其相場も荷間に惱み豆粕十枚八兩二匁大豆一石六兩三匁臺を以て初まり漸漸下押し相場となり殊に日本金融の切迫不況のため四月中旬頃迄は下落勝の有様なりしも客月二十三四日頃より景氣引立ち相場に大變動を生ド豆粕の如きは約一兩の飛相場を示し候、季節の推移と共に漸次買材料の現はれ来るべき形勢にて相場の調子は極めて强硬にて現時の處では茲所那邊まで突進せんか殆んど豫想すること能はずとの事に候然し殆んど稀なる現時の價格（大豆粕一枚九兩四匁臺）は餘り急激の持上なれば買方一派は悉く見送の態度にて寧ろ買氣消滅の態度にはあらざるかと見受けられ候も市況は大活氣を帶び客月末日頃は三日間に五十餘万枚の取引ありしと聞き及び候、参考の爲昨年及本年の開氷より四月末迄入港船舶豆粕大豆の輸出比較を報知すれば（當港海關の調査に依る）

昨年の入港船、九十五隻、九二、四八〇噸

本年の入港船 百廿六隻、一二〇、〇〇〇噸

昨年の輸出高、日本へ豆粕、六八七、三五〇擔、

日本へ大豆、七、九七七擔

南清へ豆粕、二六、四七二擔

南清へ大豆、九二、六四三擔

本年の輸出高、日本へ豆粕、一、〇七〇、二一八擔

南清へ豆粕、四九、〇〇八擔
南清へ大豆、二六八、三〇〇擔

右の如き有様にて僅か一ヶ月間位の輸出高に於て昨年と本年とは大差あることなれば以て本年市況の活氣ある事も察せられ候

當地の金融市情に付ては昨年以來暴落に次ぐに暴落を以てせし銀塊も昨今に至り減切り好氣配を呈し來り從て爲替相場にも大變動を及ぼせし次第に候、昨今大暴騰を成せし銀塊相場も一時的現象に過ぎずとなし直に又た反動的低落の時季遠からずと唱ふるものも之れ有り候へども小子の觀察では兎に角支那の景氣も目下恢復の摸様を現はして銀の需要も増加の趨勢藏ふ可らざるど同時に尤も銀塊に大關係ある印度も今ころ買控へ

居れ棉花作も麥作も大農作の事なれば清國市場の需要が再び減少する迄には印度の需要起るべきを以て現下よりも一層の昂進を見んとするにあらざるかと考へられ候、此の如く當營口の市況は活潑なる情態に候へば今迄不景氣不景氣と申し居りし連中も昨今景氣の駆々として回復しつゝあるを見て血色も好良に相成候今や豆粕の如き棉糸布の如き麥粉の如き燐寸材木の如き大活氣を呈し來り殊に大關係ある銀塊も日一日として暴騰しつゝ有れば必然輸入品の增加となりて沒設せる購買力を誘ひ以て大景氣を勃發すべきは避くべからざる順路と考へられ候從て海運界の方面も大景氣にて四月中當港に入港せし汽船は合計百廿六隻（全トく稅關調査）にて國籍別すれば日本五十八隻、英國三十七隻、清國十三隻、諾威七隻、獨逸七隻、佛國四隻にて最多數は日本汽船なれば實に日清貿易の盛なることを察せられ候以上只概畧だけ申上げ候、

滿洲視察中なる東京新聞記者團体が來る十二日來營する筈にて右記者團体と會合緩談して互に意見を交換するは當地の實勢を内地人に周知せしむる最好の機會なり談話會を兼ね懇親會を當地之俱樂部に於て開會の筈

に候何れ相手が新聞記者團体の事なれば氣焰萬丈盛會ならんと察せられ候其他當地の事情も報告すべき材料は有れども後日十分の觀察を遂げし后續々御報知可仕候(後報)

英領ヴィクトリヤより

小野助四郎

前署御免被下度候陳者雜誌舵城每度御送附被下難有奉謝候、本日雜誌代として米金壹弗御送金申上置き候に付き御受取被下度候、在郷會員諸氏の御参考に供せん爲め加奈太同胞發展史及加奈太鹿兒島縣人會々則御送り申上候間御覽被下度候(中略)豫て御承知の通り海軍少將伊地知彦次郎氏司令の下にある我が練習艦隊も去る十四日當エスコヤマルーに入港致候、内外人より盛大なる歡迎を受けられ申候我が縣下出身乗込者は左の通りに御慶候

(阿蘇)伊地知司令官(彦次郎)、(宗谷)新納少佐(司)、(全)徳尾機關中尉、赤崎軍樂長、愛甲機關兵曹長、染川、本田、有馬、伊集院、山下、黒岡、徳重の候補生、武内一等信號兵長、

雜

纂

井底蛙言(二) 在大阪池田孤案

△人間如何に多忙なればとて病痛に悩む暇はあるものと見へたり、春は取り分け繁忙な予も前號締切前一週日、劇しき風の神に見舞はれて數日間床に臥すべく餘儀なくせられ、例の蛙言所の騒ぎでなく、熱に浮かされて騒言を云ふ、今より思へば可笑しき事共也

△可笑序にと云ふ譯でも何でもなし、本誌第六號に柳州逸史の君が、既に題よりして…加治木繁榮策者の謬見を批駁すミテナ鋒銃當るべからざる名論を拜讀し、續いて一寒生君の論難、次に二者に對する烏子君の評論、皆是れ覆面愛郷の志士、憾むらくは我れ其先輩老成の名論なるか、將た新進氣鋭の卓説なるかを知るに由なし、去れども予は謝する上に於て先輩と後輩とを撰ぶ其名論を提供せらるゝ近頃の最大快事也、否我れは之に向て満腔の謝意を表するもの也、

右十三名の乗組者に對し我が縣人會よりは當地の產物獸皮一枚つゝを寄贈致候處司令官閣下より特に我が縣人會に對し自身の寫真一枚に丁寧なる禮狀を添へ贈られ候、ヴィクトリヤ及附近在留同胞一同より壹千壹百參拾弗余の寄附金を集め入港當日(五月十四日)午後六時半よりアゼンブルホールに於て盛大なる歡迎會を開き其プログラムは別紙新聞紙御送附申上候に付御覽被下度候、五月十六日午後五時在留同胞有志七名を特に司令官室に呼ばれ伊地知司令官閣下を始め石井、佐藤兩艦長坂元、下村兩參謀其外將校着席の上離別の宴を開かれ席上司令官閣下の御嗜好は獵が大好きて時々東郷大將と獵に行くとの御話故小生が豫て愛育し居るゴルデンセタ種獵犬(山水兩方に能ある當年二歳)寄贈致し候處非常に喜ばれ先日加奈太鹿兒島縣人會本部長木場清次郎氏の手を經て司令官閣下より小生へ紀念品を賜り候、申上度事も多々有之候へ共余は後便に譲り申候。

人生とは、一種の運動場で、法律てふ外圍の柵、道徳てふ内界の柵の間に於ける、不斷のランニングだと思ふ。

△云はでも濟む事なれば柳逸君の、世間往々時運の推移變轉の世相を觀せざるの徒あり吾郷党亦時に此理を悟せず云々多謝す孤案も慥かに其一人也、尙下りて遊覽客の財囊を目的とするは既に其性質に於て乞食的たるを免れず云々筆法既に珍とすべし、以下世界に於ける遊覽地の例証等読み來り読み去て、我れは直に是れに首肯する程の常識家にあらざることを悲しむ、蓋し面白き事を謂ふ人也、圓い卵も切り様で四角とやら物も曰ひ様で角が立つもの也

△予輩素より吾加治木を一の遊覽地として設備を施し一郷の繁榮を企畫せんなど夢にも思はず、只其謂ふ事に於て見地を異にす、親愛なる一寒生君あり柳逸君に向つて論難の筆鋒を取らる、折角なれど敵は本能寺に在り、惜ひ哉急所を外れたり、其處になると烏子君、乍失禮老熟の筆、能く評論して罪を作らず比喩亦妙也、當らず觸らず活殺の法を知る眞綿で首也、烏子君の言論寧ろ口吻に依て君を察するに、前二君に比して年齒稍々高かるべく、丈け低からざるも肉少しく瘦せ沈勇果毅秀麗の風貌は自から人を引き附け、鼻下に八字の鬚を蓄ふと雖も常に圓滿主義の人、而かも意氣横溢蛟龍未だ雲を得ずして敏腕伸ぶるに所なき底の隠れた

る偉傑耶非耶餘言多罪々々
△賑かな加治木繁榮策論も煎ト詰むれば、商本位とするか、農か工か、是等が議論の岐るミポイントなるが如し、鐵路開通後の吾加治木が如何に悲惨なる打撃を受けしか、將亦加治木人士が如何なる繁榮策を講じて斯くは同君に叱られたのちやな、と云ふ事を知つた位、孤城落日の感なくんばあらずか知らねど、コハ逆も孤案輩の消化物にあらず、特に厭を診ぬ病人への投薬は駄目なるべし、知りもせぬ癖に余計な口を叩いて叱られたくもなければ尚續いて名論の出づべきを樂しみ、我れば井底に蛙言を續けて讀者の嗤ひを買はんかな、△世の中は何處までも妙なもの也、學者の云ふ事も時には間違ふ事あり、凡俗の言必ずしも捨てものにあらず、殊に近頃はブルもの多し換言すれば鍍金に外ならず一皮剥ぐれば中は鉛也、是れが文明の餘澤をても謂ふものなるべし、難有き世なる哉、面黒き世なる哉、△世は様々也、金に飽かせて學問するものがあるかと思へば一方には牛乳配達の勞銀に依て僅かに其學資を辨するものあり、然かも成功者は前者に樹く後者に多

白ひ哉言、げにや事物の半面を窺ふて其全面を知らざる擔板漢流之に察して何う惕然として戒懼し肅然とし其過誤を悔悟せざる、我れ實に是に泣く、我れ汽車は軌道を駆り蒸汽船は海を航するを知る。車井戸の釣瓶を知らんと欲せば小學生と共に理科書に聞き、茶壇氣に漬物の害は之を生理書に教へられん也、△形式に於ける成就を以て、正義也、眞理也、と曰はゞ如何？言下に非認するや勿論也、是れ一物存在の眞意義は其物の精神本領の存在なるを以て也、精神本領は正義也、眞理なるを以て也、故に形式に於て成就するも眞理なき也、正義なき也、世には美々しき名のみありて誠しき實なきもの多く、口のみ大に螺の如きもの勘しとせず、今やかゝる精神本領なき形式主義は捲土重來の勢を以て、社會のわらゆる方面を壓せんとする、人特性あり國亦特性あり、一郷一村亦然り、其特性を失ふは是れ進化にあらず滅亡也、世は形のみにて立つものにあらず、已むを得ずんば人も國も死して而して後ち生くるの大精神を有すべき也、

生くるとは呼吸するの謂にあらず
爲するの謂なり（ダンテ）

(二十二)
△賑かな加治木繁榮策論も煎ト詰むれば、商本位とするか、農か工か、是等が議論の岐るミポイントなるが如し、鐵路開通後の吾加治木が如何に悲惨なる打撃を受けしか、將亦加治木人士が如何なる繁榮策を講じて斯くは同君に叱られたのちやな、と云ふ事を知つた位、孤城落日の感なくんばあらずか知らねど、コハ逆も孤案輩の消

化物にあらず、特に厭を診ぬ病人への投薬は駄目なるべし、知りもせぬ癖に余計な口を叩いて叱られたくもなければ尚續いて名論の出づべきを樂しみ、我れば井底に蛙言を續けて讀者の嗤ひを買はんかな、△世の中は何處までも妙なもの也、學者の云ふ事も時には間違ふ事あり、凡俗の言必ずしも捨てものにあらず、殊に近頃はブルもの多し換言すれば鍍金に外ならず一皮剥ぐれば中は鉛也、是れが文明の餘澤をても謂ふものなるべし、難有き世なる哉、面黒き世なる哉、△世は様々也、金に飽かせて學問するものがあるかと思へば一方には牛乳配達の勞銀に依て僅かに其學資を辨するものあり、然かも成功者は前者に樹く後者に多

し、想ふに理の當に然るべき事か、謂ふ勿れ我れ研學せんぞ欲す然れ共學資なきを如何ど、汝に恒久不變千挫不屈の鉄腸だにあらば都市幾多の勞働は欣んで汝に學資を献げん、△世の逸樂なるもの多くの黃金を積まざれば或は得難からん也、去れど想ふ、富人一夕の興を買ふべき黃金の何分の一を以て史記を買はんか、司馬遷の史筆に書かれつる漢土幾百の俊才は朝に夕に歎びて我等に接せん、△若し夫れ春風一たび梢を拂ふて、花笑ひ鳥謳ふて流水暖かに、蕨の握り拳が野山の横面を擲ぐる時、我れに一卷の博物書と數葉の古新聞とあらば、山と河と海と地とが獻ぐる珍草奇物を採集せん、試みに近郊に遊ばんか、往々古代の土器等を得て遠く想を數千年の古に馳せ、野人が木を伐り獸を獵りしを偲び、若し黒川の鼻に行き磯邊を廻らんか、磯巾着が岩に附着するを見て進まば、蝦とも蟹ともなるべき同ド甲殻類なるに、幼少の活潑にも似ず、保守退學門を開ぢて恰も東洋の某國民の如くせるものゝ成れの果てを知らん、△羅典民族の諸國が凡て世界の遊覽地と視られ、近く吾京都の萎靡不振は吾邦の遊覽地なれば也と云ふ、面

籠の改良

鳥子

余は本號に於て加治木と工業と云ふ問題に就て、述べく豫約して置いたが、碧水氏が前號から續いて、述べられるから、同問題が重なつても面白くないと思つて、題を變へた、工業問題は改めて述べよう、世界中少數の野蠻人を除く外は、大概焚いたものを食つて居る、換言すれば毎日竈の御厄介になつて居る、昔仁德天皇は、民の竈から煙の揚らぬのを見て大に仁政を行ひ給うた、今日政治學とか經濟學とか社會學とか、色々六ヶしい學問はあるが、歸する處は民の竈の賑ふ様にその儀に外ならぬ、此題ある所以である處變れば品變るで、日本と外國と衣食住が異なつて居るは言はずもがな同ト日本の内に於ても、處に依つて種々異つて居る、其内に郷里の方が勝つて居るもの多くあるが、又劣つて居ると思ふものも少くない、今此處に掲げたる竈の構造の如きは劣つて居ると思ふものゝ一つである、竈の構造も種々あるが、つまり換氣法即ち、竈の口から風が這入つて、上方から煙の逃げる道を拵へ

て置けば、良いのである。夫れには煙突を付けることが最も捷徑である。然るに從來加治木邊で用ひて居る竈には、一つも煙突の設備がない、故に第一薪の燃え工合悪敷、未だ燃えきらぬ瓦斯が皆煙になつて外に出てしまつて、甚だ不經濟である。第二煙が家中に鑿ひて衛生上に悪い、殊に煙は眼のために甚良くないうである、第三壁や天井が真黒になり煤がさがつて見苦しくなる、今之に煙突を付ければ、以上の諸点を除くを得、薪の燃え工合良くなり、臺所奉行が大分樂をするであらう、且薪の經濟になる。今之に如く燃料が乏しく又高くなれば遂に朝鮮の山林の如くなることがないとも限らぬ、今一家一年壹圓の燃料を節すれば、一村一郡では大分の儉約が出来る、成申の詔勅出で、報徳教の盛んなる目下の時節、先づ是等卑近な處から改良してかかつては如何、

煙突には必ずしも鉄管や煉瓦を用ゆるに及ばぬ、普通は瓦製の圓筒又は土管を繼いで用ひてある。念の入つたところで針丹製で充分である、又茅葺では危険であらうか、瓦葺又は裾瓦葺ならば危険はない、煙突は一年一回位掃除をせなければならぬ、委細の構造に至つては、余は左官でないから良、知らぬが、火が釜の底

に良く擴がつて、其餘りが煙突の方に脱ける様に工夫することは六ヶしいことではあるまい、尙吾縣の様な暖國では、別に老人と子供の温まる方法を考へて「ニルリ」を一切廢止しては如何、

男子一戦して敗るゝども已む勿れ、再戦して已む勿れ、三戦して已む勿れ刀折れ矢盡さて已む勿れ骨撞け血盡きて已むべきのみ、真理の爲に擲つに非ずんば吾人の生命もまた無用ならずや

新島 裏



詞藻

詩

漢

取是舍非宜在我。莫將鄭衛奏清聲。

奉送島津貴爵游歐米

鹿兒島新聞記者

江藤 春風

雄圖落々拔人群。欲破鵬程萬里雲。休說尋常別離苦。歐山米水笑迎君。

和歌

歌

メダチ一子 佐々木 寛

公子壯心將遠行。高樓勸酒好飛觥。想看炎熱三旬苦。ト得海波千里平。柳色空濛遮檻暗。燈光燦爛照人明。醉來翻有別離恨。夜雨杜鵑時一聲。

奉送男爵島津久賢君游于歐米

鹿兒島新

さみをおくるわかなむけは鶴嶺の神にいのるのはかなかりけり

金

男爵島津久賢君の歐米大陸漫遊の途に上らるゝを送るどて

島津久實

遠征萬里豈尋常。霄漢將摩意氣揚。蠻屈俟機姑靜鎮。鵬圖鼓翼忽高翔。歐西視政磨才器。米北察風收錦囊。人情難測險還平。層樓峨闢雲聳銀燭華燈照夜明。今夜江樓何用送。長歌一曲酒三行。

奉送松堂島津男爵游歐洲次佐々木木鶴南韻

檢事正 塞翠 松本 敦意

鵬程萬里破波行。立志欽君廢酒耽。學術須修博而約。人情難測險還平。層樓峨闢雲聳銀燭華燈照夜明。

高き名あけよ山はとこす

全

西の洋波路やいかにあらからむ

身をつくしても楫なゆるせう

全

鹿兒島新
聞記者 東 孤竹バザロフの親の悲哀と自覺とを知らざる親をもてるわ
れかな

牧 冷雨

大君のみかきとなりて遠つ祖の

いさをつくへき今日の旅かな

物

○新潮 白鳥(大山)

詩の國拓き耕し培ひて「飯」を忘る。君郷にあり(曉村

様に)

新潮に棹す君よ願はくば「眠れる者」を眠れりとせよ

(白哀人生へ)

努力してベン尖どぎて進め君文の林は鶴首してあり

(綠波生へ)

「血」に生くる若きおのこの意氣知らぬ者皆黙れ行末を

見よ

遠慮なく親ともいはず埋め去るタイムの力讀すべきか

な

得堪えずとせし境にもなれくぬはげしき心荒海を戀
ふ
すぐれたる人をおろれずかたくなの衆愚にたへすけお
されてゐぬ
涙よく流せしさがのいつかゝる横導者となりもはてし
嬉してふ言葉はいみト乙女等の「虚偽」につぐ實とはせ
よ
生くるてふことともたはれのやうおぼゆ語りいふことお
そけておらむ
うの祖のまたうの祖の「虚偽」に育ちぬいかでもとにか
へらド
激すればこの殘忍を敢へてする男と知りて戀せしやう
も
飽き足らぬ拙さがは若き日を追憶もなく淋びしく過
ぎぬ大地も壊へむ月はも日輪も消む時あらむ人もなから
む
妻もちぬやがては人の親となり人なみくの道も行く
べき
かぎりなく物も言ひにき怨みにきうの眼おもへば泣く
ばかり戀ひし
人知れず葬らまほしこのこころわれをも知らぬ「忘却」
のなかに玩具もて菓子もてだましすかされてなほ泣きやまぬ子
にてありけむ
酔ひしれてひた酔しれて酔ひ泣きて泣きつゝ死なむ悔
なかるべき
わがごときものに嫁きて髪ろゝけ面瘦せし妻あはれと
も思ふ
男てふ渡こりけおひておはらかに歩みしこのなつか
しきかな
これはしも男のなげき洩らさんに餘りに弱き慰めなり
き男々男はわれの名なりきと思ふに胸の抱かれぬるか
な剣出すために生れしならねども拙き性質はわれ荆刺負
へり(大山白鳥君に)このせはば殿堂としも居る人とひろき工場と思へる人
と笑はむも泣くも黙すはなほさらにえたへず寂びし狂ひ
あらましあはれみをこはむ身ならずわれまむ性質にもあらず
かくひとり居る

自非讀万卷書 寧得爲千秋人

自非輕一已勞

寧得致兆民安

藤田 東湖

雜

報

◎同鄉會春季總會

我が同鄉會春季總會は去る四月十五日午後一時より加治木中學校兩天体操場に於て開催せり、會員は定刻前に集り島津會長及來賓の來着を待ちしに牕て會長は來賓九鬼樞密顧門、吉田中將、桑幡大佐、東鹿兒島記者と來着小憩の後開會せり、先づ本田委員開會の辭次に會長島津男の挨拶あり、岩城委員より會務報告の後協議事項に移り、本年は役員改選期に當るから先づ改選の件が議題に上りしに會長は無論男爵に御苦勞を煩はすこととなり次に會則改正の件則ち幹事若干名を置き會長の指揮に従ひ會務に從事せしむること而して各役員の推選は會長に嘱託することとなり之にて講話に移れり、扱て九鬼男は會長の紹介にて登壇し謹嚴なる態度を以て講話し初め、豪放闊達を英雄の本色と心得るは誤れり周到綿密堅忍不拔勵精努力が成功の要素なりとて豊太閤を冒頭に説て曰「豊太閤は豪放快活のみであつた様だが古文書によると其周到綿密勤勉忍耐であつたことがよく分る彼は自身に朝鮮語を學び其の上朝

城
棺
我か同鄉會春季總會は去る四月十五日午後一時より加治木中學校兩天体操場に於て開催せり、會員は定刻前に集り島津會長及來賓の來着を待ちしに牕て會長は來賓九鬼樞密顧門、吉田中將、桑幡大佐、東鹿兒島記者と來着小憩の後開會せり、先づ本田委員開會の辭次に會長島津男の挨拶あり、岩城委員より會務報告の後協議事項に移り、本年は役員改選期に當るから先づ改選の件が議題に上りしに會長は無論男爵に御苦勞を煩はすこととなり次に會則改正の件則ち幹事若干名を置き會長の指揮に従ひ會務に從事せしむること而して各役員の推選は會長に嘱託することとなり之にて講話に移れり、扱て九鬼男は會長の紹介にて登壇し謹嚴なる態度を以て講話し初め、豪放闊達を英雄の本色と心得るは誤れり周到綿密堅忍不拔勵精努力が成功の要素なり

とて豊太閤を冒頭に説て曰「豊太閤は豪放快活のみであつた様だが古文書によると其周到綿密勤勉忍耐であつたことがよく分る彼は自身に朝鮮語を學び其の上朝

◎村勢状況

四十二年度歲出入豫算表

一金參萬〇參百拾貳圓貳拾九錢八厘 岁入豫算

歲出	
一金貳萬〇九百六拾六圓七拾九錢八厘	經常費豫算
一金九千參百四拾五圓五拾錢	臨時費豫算
計金參萬〇參百拾貳圓貳拾九錢八厘	
歲入內譯	
第一款 財產ヨリ生ヌル收入	一、二九六、一〇〇
第一項 貸地料	三〇、〇〇〇
第二項 貸附金利予	五七六、〇〇〇
第三項 公債利予	三二、五〇〇
第四項 債券利子	一、六〇〇
第五項 預ケ金利子	六五〇、〇〇〇
第六項 小作米	六、〇〇〇
第二款 使用料及手數料	一八一、三七五
第一項 堤塘使用料	六、三七五
第二項 督促手數料	二〇、〇〇〇
第三項 戶籍手數料	一三〇、〇〇〇
第四項 諸證明手數料	二五、〇〇〇
第一項 雜收入	一六九、二六八
第二項 產物拂代	二〇、〇〇〇
第三項 不用品拂代	四〇、〇〇〇

歲出	
一金貳萬〇九百六拾六圓七拾九錢八厘	經常費豫算
一金九千參百四拾五圓五拾錢	臨時費豫算
計金參萬〇參百拾貳圓貳拾九錢八厘	
歲入內譯	
第一款 財產ヨリ生ヌル收入	一、二九六、一〇〇
第一項 貸地料	三〇、〇〇〇
第二項 貸附金利予	五七六、〇〇〇
第三項 公債利予	三二、五〇〇
第四項 債券利子	一、六〇〇
第五項 預ケ金利子	六五〇、〇〇〇
第六項 小作米	六、〇〇〇
第二款 使用料及手數料	一八一、三七五
第一項 堤塘使用料	六、三七五
第二項 督促手數料	二〇、〇〇〇
第三項 戶籍手數料	一三〇、〇〇〇
第四項 諸證明手數料	二五、〇〇〇
第一項 雜收入	一六九、二六八
第二項 產物拂代	二〇、〇〇〇
第三項 不用品拂代	四〇、〇〇〇

鮮の地圖を自身に書きつゝ地理を研究して居た、こんな周到綿密な根底があるから彼の如き成功があつたのだ云々、其他古今東西の傑士の言行を博く引証し、豪傑の風采外貌を慕ふて徒に豪邁闊達のみを摸る者は虎を描て成らす却て猫に類する者で愚の至り也英雄豪傑に學んで至り得べき「周到綿密刻苦勵精等」の方面を學ぶべし此方面でさへあれば完成の域に至らすとも其一部分でも屹度質實なる善人として人格の上に高き位置を占めることが出来る殆ど三時間諄々として説き去り講し來り一同に多大の感動を興へたり、これで會長は閉會の旨を告げて一同退散せり。

九鬼男は書畫骨董品の鑑定に堪能の人今回來加は復と得難き幸機なれば委員等は奔走して書畫骨董品を蒐集せしに集まるもの數十点之を中學校別室に陳列し総會閉會の後男の鑑定を乞ひたり唯時間切迫の爲め凡ての品を精覽さるゝの暇なかりしが遺憾なりき、

一金參萬〇參百拾貳圓貳拾九錢八厘 岁入豫算

第四項 小學校授業料	一、三七七、七五〇
第五項 財產賣拂代	二〇〇、〇〇〇
第六項 製品拂代	四〇、〇〇〇
第七項 過年度收入	一、四八三、五一八
第八項 應知スペカラザル收入	一、〇〇〇
第九項 藥費	二、〇〇〇
第十項 食費	三、〇〇〇
第四款 前年度繰越金	三、六〇〇、〇〇〇
第五款 郡費補助	三五、〇〇〇
第六款 縣稅補助	三六六、八二〇
第一項 教育費補助	二〇、〇〇〇
第二項 衛生費補助	三三六、八二〇
第三項 殖林費補助	一〇、〇〇〇
第七款 勸業費寄附金	一〇、〇〇〇
第八款 國庫交付金	一〇、〇〇〇
第九款 縣稅交付金	二〇〇、〇〇〇
第一項 地價割	二、九一五、八七五
第二項 營業割	一、五八〇、〇〇〇
第三項 戶別割	二一、二一三、七三五
第四項 所得稅附加割	一五、四五七、八六〇
第五項 所得稅附加割	七七〇、〇〇〇

第五項 營業附加割
歲入合計金

四九〇、〇〇〇
三〇、三一二、二九八

第三項 獸疫豫防費
八、五〇〇
第四項 產馬獎勵費
六〇、〇〇〇
第五項 造林費
一五〇、〇〇〇

第一款 役場費
歲出經常費

九〇、二〇〇
三、七三九、五〇〇

第八款 諸稅及負擔
第一項 村有諸稅
第九款 村有財產管理費
第十款 基本財產蓄積金
第十一款 神社供進費
第十二款 雜支
第十三款 豫備費
歲出經常費合計金

第二款 會議費
第三款 土木費
第四款 教育費
一 桧城男子小學校費
一 桧城女子小學校費
一 永原尋常小學校費
一 雜場分教場費
一 龍門尋常小學校費
一 中野尋常小學校費
一 女子實業補習學校費
一 育英學校費
第五款 館生費(傳染病豫防費)
第六款 警備費(消防費)
第七款 勸業費
第一項 農會補助費
第二項 機織業補助費

三三〇、〇〇〇
一三、三六七、六八〇
四、四五六、七七〇
二、六九三、八五〇
二、四〇九、六二〇
九一九、一四〇
三二五、九八〇
一、一七三、一五〇
六六五、九一〇
一九八、三〇〇
五一四、九六〇
六八、五〇〇
一四一、四〇〇
一、四五七、三二三
五三三、二二三
七〇五、六〇〇
第一項 村有土地買入費

第一款 役場用揭示場建設費
第二款 教育費(學校建築費)
第三款 衛生費
第一項 傳染病院費
第二項 病院建築費
第三項 產婆養成補助費
第四款 雜支出
第一項 村有土地買入費

第五款 家屋買上費
第三項 家屋修繕費
歲出臨時費合計金
歲出總計

一、一三〇、〇〇〇
二〇〇、〇〇〇
九、三四五、五〇〇
一、四五七、三二三
五三三、二二三
一、七四三、〇〇〇
四一三、〇〇〇
二〇、九六六、七九八
歲出臨時費

第一款 教育費(學校建築費)
第一項 村有土地買入費

第二項 家屋買上費
第三項 家屋修繕費
歲出臨時費合計金
歲出總計

一、一三〇、〇〇〇
二〇〇、〇〇〇
九、三四五、五〇〇
一、四五七、三二三
五三三、二二三
一、七四三、〇〇〇
四一三、〇〇〇
二〇、九六六、七九八
歲出臨時費

第四款 教育費
第五款 家屋買上費
第六款 警備費(消防費)
第七款 基本財產蓄積金
追加豫算表

一、一三〇、〇〇〇
二〇〇、〇〇〇
九、三四五、五〇〇
一、四五七、三二三
五三三、二二三
一、七四三、〇〇〇
四一三、〇〇〇
二〇、九六六、七九八
歲出臨時費

第一項 農會補助費
第二項 機織業補助費

一、一三〇、〇〇〇
二〇〇、〇〇〇
九、三四五、五〇〇
一、四五七、三二三
五三三、二二三
一、七四三、〇〇〇
四一三、〇〇〇
二〇、九六六、七九八
歲出臨時費

第二項 家屋買上費
第三項 家屋修繕費
歲出臨時費合計金
歲出總計

一、一三〇、〇〇〇
二〇〇、〇〇〇
九、三四五、五〇〇
一、四五七、三二三
五三三、二二三
一、七四三、〇〇〇
四一三、〇〇〇
二〇、九六六、七九八
歲出臨時費

第二項 家屋買上費
第三項 家屋修繕費
歲出臨時費合計金
歲出總計

一、一三〇、〇〇〇
二〇〇、〇〇〇
九、三四五、五〇〇
一、四五七、三二三
五三三、二二三
一、七四三、〇〇〇
四一三、〇〇〇
二〇、九六六、七九八
歲出臨時費

第二項 家屋買上費
第三項 家屋修繕費
歲出臨時費合計金
歲出總計

一、一三〇、〇〇〇
二〇〇、〇〇〇
九、三四五、五〇〇
一、四五七、三二三
五三三、二二三
一、七四三、〇〇〇
四一三、〇〇〇
二〇、九六六、七九八
歲出臨時費

第二項 家屋買上費
第三項 家屋修繕費
歲出臨時費合計金
歲出總計

一、一三〇、〇〇〇
二〇〇、〇〇〇
九、三四五、五〇〇
一、四五七、三二三
五三三、二二三
一、七四三、〇〇〇
四一三、〇〇〇
二〇、九六六、七九八
歲出臨時費

第一項 農會補助費
第二項 機織業補助費

一、一三〇、〇〇〇
二〇〇、〇〇〇
九、三四五、五〇〇
一、四五七、三二三
五三三、二二三
一、七四三、〇〇〇
四一三、〇〇〇
二〇、九六六、七九八
歲出臨時費

第一項 農會補助費
第二項 機織業補助費

一、一三〇、〇〇〇
二〇〇、〇〇〇
九、三四五、五〇〇
一、四五七、三二三
五三三、二二三
一、七四三、〇〇〇
四一三、〇〇〇
二〇、九六六、七九八
歲出臨時費

第一項 農會補助費
第二項 機織業補助費

一、一三〇、〇〇〇
二〇〇、〇〇〇
九、三四五、五〇〇
一、四五七、三二三
五三三、二二三
一、七四三、〇〇〇
四一三、〇〇〇
二〇、九六六、七九八
歲出臨時費

第一項 農會補助費
第二項 機織業補助費

一、一三〇、〇〇〇
二〇〇、〇〇〇
九、三四五、五〇〇
一、四五七、三二三
五三三、二二三
一、七四三、〇〇〇
四一三、〇〇〇
二〇、九六六、七九八
歲出臨時費

第一項 農會補助費
第二項 機織業補助費

一、一三〇、〇〇〇
二〇〇、〇〇〇
九、三四五、五〇〇
一、四五七、三二三
五三三、二二三
一、七四三、〇〇〇
四一三、〇〇〇
二〇、九六六、七九八
歲出臨時費

本村四十二年度豫算は、右の如くにて之を昨四十一
年度に比すれば、經常費に於て千四百七拾九圓六拾
六錢九厘を増し、臨時費に於て千百九拾四圓〇參錢
を増せり、經常費に千四百余圓を増したるは、改正
小學校令に基き尋常小學第六學年を増設し、高等科
を三ヶ年に延長せし爲め、教育費に増加を要するに
由る、臨時費に千百余圓を増したるは、教育費中校
舍建築費は大畧昨年と同額なるも本年は避病舎の改
築及鄉友會議事堂の買入れを要するに由ると云ふ
尙ほ本年は桜城男子校舍も既に破損せる爲め、改築
の豫定にて之れが費用壹萬余圓は村債を募集し漸次
返償の方法を取れるとの事なるが右金額を合すれば
本年度豫算是四萬余圓に達する筈なりと

第一項 農會補助費
第二項 機織業補助費

一、一三〇、〇〇〇
二〇〇、〇〇〇
九、三四五、五〇〇
一、四五七、三二三
五三三、二二三
一、七四三、〇〇〇
四一三、〇〇〇
二〇、九六六、七九八
歲出臨時費

第一項 農會補助費
第二項 機織業補助費

一、一三〇、〇〇〇
二〇〇、〇〇〇
九、三四五、五〇〇
一、四五七、三二三
五三三、二二三
一、七四三、〇〇〇
四一三、〇〇〇
二〇、九六六、七九八
歲出臨時費

本村四十二年度豫算は、右の如くにて之を昨四十一
年度に比すれば、經常費に於て千四百七拾九圓六拾
六錢九厘を増し、臨時費に於て千百九拾四圓〇參錢
を増せり、經常費に千四百余圓を増したるは、改正
小學校令に基き尋常小學第六學年を増設し、高等科
を三ヶ年に延長せし爲め、教育費に増加を要するに
由る、臨時費に千百余圓を増したるは、教育費中校
舍建築費は大畧昨年と同額なるも本年は避病舎の改
築及鄉友會議事堂の買入れを要するに由ると云ふ
尙ほ本年は桜城男子校舍も既に破損せる爲め、改築
の豫定にて之れが費用壹萬余圓は村債を募集し漸次
返償の方法を取れるとの事なるが右金額を合すれば
本年度豫算是四萬余圓に達する筈なりと

本村四十二年度豫算額は別項記載の如くなるが今村民一戸負擔額の前半期分を掲ぐれば左の如し、

一等三十六圓、十等六圓貳拾四錢、二十等三圓〇六錢
三十等壹圓四拾四錢、四十等四十九錢、五十等十七錢

全年度前期村稅一戸負擔額

一等百四十六圓五十二錢、拾等貳拾五圓四十錢、二十等拾貳圓四拾五錢、三十等五圓八拾六錢、四十等壹圓九拾九錢、五十等六十九錢

◎島津男爵の受賞

島津男爵去る明治三十二年十一月本村へ、學校基本財産として金五千五百圓を寄附せられることは、人の皆な知る処なるが、此程其賞として賞勳局より金杯一個を授与されたりと云ふ、實に祝すべき事也、

◎松下博士の厚意

同博士が本誌の主旨を賛し、忙中筆を執りて特に本號所載の論説を寄稿せらる、吾人は吾が同郷人士と共に

當村收入役として去る三十八年以來謹直に勤続されたる四元莊助氏は、今般任期満了、且つ老年の故を以て辭任され、其後任として川原伸太郎氏推薦せられ、村農會書記下楠園伸太郎氏は全會農業技手に任せられしに付東陽正左衛門氏其後任となる

◎本村内各小學校教員異動

前中野小學校長宮内精二氏龍門校へ轉せし爲め、清水小學校訓導赤塚眞男氏(吉松の人)其後任に、溝邊村玉利小學校教員前田エイ子も同校教員に、本年師範學校卒業生木場ケサ子(川内の人)は桜城女子校訓導に、又桜城男子校訓導平山彌太郎氏辭任に付き、宮内小學校教員西田彌次郎氏(國分の人)其後任を命ぜらる

◎教員と學務委員の縣外視察

桜城男子小學校訓導榎本繁次郎及び本村常務學務委員岡山猪治の兩氏は去る四月下旬より約二週の豫定を以て熊本福岡佐賀長崎四縣の學事視察として出張せり其視察報告の概要は別項記載の如くにして間接に直接に本村の教育に裨益すること蓋し渺少ならざるべし。彼の長を取りて我の短を補ふは進歩の良法にして世間知らずの高枕主義は退歩の一端たるを悟らば多少の経費は奮發して此後も年々一二名づゝは他府縣へ視察員を派遣する様ありたるものなり

◎教育會と慰勞親睦會

本村教育會は五月廿九日午前九時より桜城男子小學校講堂に於て開會出席者五十四名先づ一時間の授業參觀をなし次に學年會に移り教授の批評及び諸種の打合せを卒へ午后一時より先般學事視察の爲め縣外へ出張せし榎本訓導の報告談あり同氏が視察せし校數十校に及びたれば到底短時間に其精細を盡すべきにあらざればとて學校を物的方面と精神方面とより概觀して各縣は如何なる處が我縣に比して優劣あるかを最も縝密に談論せしかば會員は多大の趣味を以て迎へ恰も實地に臨みし感ありて孰れも満足の跡に見受けたり午后三時半

◎東京通信

(春の會) 四十二年三月二十八日桜城同交會例會を、在京中の榎本代議士招待を兼ね、牛込區清風亭に於て開催す、來り會するもの十五名、前會に比し甚だ

に、其の厚意に對し、謹みて茲に深厚の謝意を表白す、

◎本村吏員の異動

閉會後天理教會堂に於て榎本訓導と同行視察の途に上りし岡山學務委員両氏の慰勞會旁々今春新に本村各學校へ赴任の人多く初めての會合なれば見知合を兼ねたる懇親會を開きしに出席者は石神村長學務委員佐藤友樹氏等五拾余名酒間白尾訓導の熱心剖切なる演説等ありて頗る盛會互に胸襟を披きて快談に時の移るを知らず日没の頃一同退散したり

◎郵便局長の交迭

二十餘年間加治本郵便局長として勤勞されし曾木彦次氏は今般其職を辭し蛇尾岳の麓に柑橘を伴とし風月を愛するの閑人となれり其後任には長谷場唯二氏任命されたり我が輩は多大の功績を遺して勇退されし前局長に謝するど同時に新局長に其人を得なるを喜ぶものなり

多數にして實に在京會員の半數なり。午後五時開會。幹事の開會の辭、前會の報告並に柚木代議士は突然今夕九州代議士會の催さるゝありて遺憾ながら出席相叶はずと寄附金贈與せられし旨の報告あり。次で前會に於て會長に推選せられたる谷山初七郎氏は起つて會長としての挨拶ありたり。それより酒宴に移り杯漸く重ならんとするに當り幹事は起つて前會の決議「會費は出席の有無に關せず之を徵集する事、但欠席者は其半額を納むべし」に就て其後の成行を報告し、其實行の可否を改めて決議せん事を出案し、近頃出席者の甚だ少く本會の存否を憂ひ其前後策に就て述べる所ありたり。茲に於て該案の賛成者先づ口を開き次いで二三の反對演說出で、互に反駁論争最も熱誠を極め千万言絶え間なく或は酒黨に乘し或は拳を固めて論難するあり互に秘術を尽して攻めつ戰ひつ何時果つべくとも見えざりければ、茲に多數決によるべしとの動議出て其結果賛成者多數を占め、字句訂正の上愈々次回より實行する事と決す。因に記す此の多數決を以て中立黨の入り最も快感を覚えしは殺氣満ち程の激論も忽ちにして一点の暗雲を留めず互に胸襟を開ひて飲めよ歌へ

始良郡教育會の主催に係る準教員養成講習會は去る四月上旬より十二月迄八ヶ月の豫定にて加治木郷友會議事堂に於て開會されたり講師は牧園尋常高等小學校長平山喜一氏主任とし緒方英吾小濱秀輔松下サカシの三氏補助講師たり生徒は男女六十五名にして加治木村よりは男女合せて十名なりと、

◎村教育家の名譽

桜城女子尋常高等小學校長上野喜之助氏は去る四月中文部大臣より普通教員免許狀を授與されたるが、右ばかりは元出氏之を受け、而して今亦此事あるは、實に本校長原出氏之を受け、而して今亦此事あるは、實に本

の大騒ぎ盃は飛走して列なす平家枕を並べて倒るゝもの數を知らず、愈々興に入りて谷山氏の例の美音は詩吟或は「シヅノオダマキ」となりて發し城川氏の謡、白尾氏の百藝其他詩や歌や劍舞や實に別天地の感あらしむ而して漸く飲み食ひ飽きでは既往今來を談するあり

或は幼少の頃おひ古郷にて各々なしつる事とも回想しつゝ互に舊情を温め興の尽くる所を知らず、午後十二時を過ぎて漸く散會を見るに至れり、誠に近來の盛會、殊に最終まで一人の早引なく共に打ち連れて江戸川河岸に別れを告げしは得難き事ともなり、

當日の出席者左の如し

安樂直治、城川善蔵、白尾清、木佐貫重彦、法元辰二、本田親二、前田清之助、入部泰藏、立山甚藏、本村半助、川畑武兵衛、川畑平治、會長谷山初七郎幹事原田孫助、有川貞治、

會計

收入 會費拾貳圓、貯金引出貳圓、柚木氏寄附金拾圓

支出拾八圓四拾八錢

殘金五圓五拾貳錢

因に記す 今回幹事改選期にて選舉の結果左の如し

村教育界の名譽と謂つべし

◎勤績教員に慰勞金贈與

前桜城男子校教員丸目長光氏が前後二十有五年の久しきに涉り、本村教育の爲め盡瘁されしは普く人の知る處なるが、昨年病氣の爲め退職されしを以て慰勞として本村より金參拾貳圓を贈與する事に決議されたりと云ふ

◎松方侯の歸省

松方侯には令夫人同行去る三月十七日久し振りに故郷鹿兒島に歸省し社會のあらゆる方面より熱誠なる歡迎を受けられたり而して滞鹿二旬余日の間殆ど席暖る暇なく各所に臨み講話して教戒を與へられ各社會か親く侯の莫萎に接して其教訓に浴せし所實に少からず、侯は四月二日鉄路にて小林の島津家山林及長野金山檢分に往かれしが當驛通過の際は科復共に有志諸氏は歡迎して元勳優遇の誠意を表せり

官幣社照國神社の新殿建築は既に先年竣成せしも今日まで其正遷宮式を行はるゝに至らさりしが茲に本年四月廿八日と云ふ公の御誕生日を選び正遷式を行はれ次で翌廿九日公の五十年忌祭典を催みされたり、因に去三十二年建築着手以來の新築費は金六万七千八百五十余圓なりと

◎島津男爵御家族墓參

島津男爵御家族一同は去る五月六日墓參がてら伊瀬地中將同伴御來加ありて日本山扇和園に竹ノ子狩をなし一日の清遊を盡して夕刻歸麗されたり

◎龍門庵祝宴

龍門庵主生駒喜之助氏は去る五月九日開業三周年に相當するを以て風雅の客を招ト午後二時より紀念祝宴を開けり、席定まるや庵主の挨拶ありて町販なる酒肴の饗應あり献酬盛に行はれ快談所々に湧き歌ふあり踊るあり頗る盛況を呈せり、當日の來賓は鹿兒島爾新聞社員丹羽運輸係長細山田鹿兒島驛長瀬島加治木驛長大山郡長長谷判事平原警察署長石神村長等其他五十余名なりし

◎志布志中學校の開校

今般新に創設されたる縣立志布志中學校は去る四月生徒募集を爲し五月より始業したるが本村よりの入学者は市來政友、池岩雄、美坂春彦の三氏なり

◎中野小學校落成祝

學年延長の結果校舍狹隘を告げ、先般來二十坪凡う六百圓を投して増築中なりし同校は、愈々竣工を告げ、

去る五月二十三日午后一時より新校舎内に之れが落成式を行はれり、生徒職員來賓一同着席の上敬禮唱歌君ヶ代勅語奉讀、赤塚校長の祝詞、石神村長の挨拶、唱歌落成式を以て式を閉ぢ、宴會に移り余興として棒踊り相撲等あり殊に村婦女子連の幾組となき面白き手踊りは終始破れん計りの喝采裡に頗る解かしめ、近隣部落の老幼男女舉つて倒の吸筒辨當持參にて來り庭内立錐の余地なき有様なりき

◎加治木の海軍紀念日

五月二十七日は實に我日本國民が永久忘るべからざる海軍紀念日なるを以て全國到る所祝賀會の催あることなるが我加治木村に於ける當日景況は如何に、
松城男子小學校に於ては全兒童を講堂に集め緒方訓導の講話あり先づ當年海戰の狀況を簡明に説て一同の壯快を新にし次に東郷大將の少年時代を詳細に演べて兒童に少からざる感奮を與へ終つて兵式、普通体操及綱引き等の聯合運動を行ひたるか其巒格熱心活潑なる動作は末頼母しく見へにけり、夫れより隊伍整々として招魂社に參詣して勇士の忠魂義魄を弔へり、
紀念祝賀會は午後四時より戰役紀念碑庭園内に於て開

◎矢嶽隧道導坑貫通

肥薩鐵道未成線路中最も難工事たる矢嶽隧道去る五月十日前貫通せり、全所は海拔一千八百尺余の險處にして其壠鑿する所延長六千八百七十七尺即十九町六間余我國にありて既成隧道中最も長き八王子甲府間の笛子峠隧道總延長一万五千尺（一里五町余）に次ぐ日本第二の長距離隧道と稱すべく、起工以來殆んど三ヶ年の時日と經費八十万圓を要せりと云ふ、尙今後切石及煉瓦等の卷立をなし線路敷設彌々開通迄には幾多の時日を要するならんも當局者の云ふ処によれば來年三月頃は其運びに至るべしと

催されしに出席者百五十余名先づ石神村長の開會の辭ありて開宴、次に全村長の音頭にて陛下の萬歳と海軍の萬歳を唱へ開宴中米良海軍兵曹長は一同の勸請により起て氏が敷島艦の砲手として奮闘したる當時の實戰談を試み深く一同の感興を惹けり、斯くて獻酬盛んに起り何れも衷心當日の紀念を祝し和氣洋々の裡に退散せしは暮色蒼然たる頃なりき

◎春季招魂祭

招魂社春季例祭は去る五月二十七日午後第一時より舉行せられしが遺族諸氏を初め本郡長、村長、村會議員、有志一般小學生徒等多數の參拜ありといと盛大なる祭典なりき、終つて遺族一同へは菓子を配與されたり、夫より參拜者の多數は別項記載の紀念會に臨みたり、
島津男爵には去る六月十五日午後六時、今般歐米漫遊留守中の打合せをせらるゝ爲め、編輯同人一同を松城館に招待された、當時男は令夫人令嬢方と牧園村ラム子温泉に湯治中で然かも雨天にも不拘態々來村された譯であるが、馳せ集まつた者十四名病氣又は事故の爲

を開き雑誌が逐號發達せるは、委員の尽力に依る事と二年の留守中は益々尽力すべき事并に最早委員の改選時期に達したから改選を行ふ旨を述べられ、別項會報の通任命せられたのである、右にて協議を了り酒宴の饗となつたが男は近來禁酒中にも不拘、自ら獻酬の勞を探られ應對に勉められたので、一同不覺醉を買ひ十二分の歡を尽して散會せしは十一時頃であつた

◎警察電話架設

警察電話は、縣内各警察署へ架設の目的にて、既に伊集院、隈城、出水、宮城等の各署へは昨年度中に架設を終へたれば、本年度内には、加治木、國分、横川、大口等の各署へ架設さるべく已に其實測も終りたる由なれば遠からずして其架設を見るに至るべし、尙ほ來年度以後に於て、南隅、南薩の各署に及ぼさん豫定なりと云ふ

◎後藤遞信大臣來覧

遞信大臣後藤新平男は、去る四月下旬三井氏開築の筑後國大牟田港の竣工式へ臨場の序を以て、本縣内遞信宜を圖ることとなりたり

◎鳴津男爵送別會

島津男には今回歐米諸國漫遊に付き本村民は舊來の關係上其行を壯にせん爲め、去る六月二十一日鄉友會議事堂に於て、祖道の宴を張る事となり、委員は數日前より之れが準備に忙はしく、當日は午前中合圖の煙火は寂寥たる松城の天地を震ひ動かして賑々しく鳴り渡り、男爵には午後二時四十五分着列車にて來加の上松城館へ休憩せらる、やがて定刻四時前となるや二百の會員は三々五々會場指して集まり來り男爵の臨席を待ち受けしが男爵には村長の案内にて來着早やくも開會

會代の莊重なる長文の送別辭（本紙卷頭に掲げたる者）次に日野辰二氏は島津家御一門中歐米大陸漫遊を試みらるゝは男を以て嚆矢とすとて男の決心を稱し、

併せて其名譽を發揚せられんことを望むと述べ、次で

男の謝辭ありしが、男は留別の情に堪へざるものゝ如く、僅かに數言を述べられたり、最後に白尾訓導の送辭ありて直ちに開宴、宴中は當時當町にて開演中の新舊合同劇誠盟社一座俳優の劍舞、滑稽劇、舊劇千本櫻など數番演せられ歡聲湧くが如き裡に主客十二分の歡を尽し男の胸揚げ等あり七時頃散會せしが、男は再び松城館へ引返へし晩饗後、同九時發列車にて歸途に就かれたり、之れより先き當停車場には有志者始め、加治木婦人會員村内各學舍員等、無慮數百名歎送の爲め來會せしにより、ラットホームは殆んど立錐の餘地なき有様にて、煙火は數々高く中天に打揚げられ盛況言はん方なかりき、男は即ち一同に對し留別の辭を述べ乘車せらる、其將に發車せんとするや大山郡長の音頭にて、松城の天地も動かん計りに一同男の萬歳を唱へ、餘音長く錦江の波を搖かしたらん如く、蓋し近來未曾有の盛會なりし、因に島津男爵よりは留別としてハシカチーフを求める之を會員一同に配與し、尙加治木婦人會よりはシャンパン・ナイター四打、加治木授產場よりは特製饅頭を寄贈せられたり、而して鹿兒島に於

事務并に鐵道情況視察の爲め、人吉、吉松を経て四月三十日來魔されたるが、當驛に於ても官民多數の出迎ありたり、男は前後一週間の滞魔にて、市内各所を歷覽し、且つ其内都城及宮崎地方もへ趣き親しく其事情を視察して再引返し川内、米ノ津を經て西薩鐵道豫定線を視察して、阪京の途に就かれたり

◎柚木代議士慰勞会

姶良郡大懇親會

霖雨中 晴天六月十日同會は午後四時より當町旗亭小松屋に於て春季例會を開催せり、各村より集まれる者総數百餘名に及び廳て配膳整ふや日野辰二氏發起人、代表して慰勞の辭を述べ、廿五議會に於ける幾多の問題中殊に本縣の利害に大關係ある黒糖稅と鐵道問題との好果なりしは切に全代議士等の熱心盡瘁に因る事を感謝し次ぎに全代議士は如上問題の如きは獨り代議士の力に非ずして全く諸君の國家的行動の後援にある事並に本會の厚情とを感謝すべきを陳し終て酒宴に移りしが酒酣にして吉松村の人山口喬樹氏は起て一場の快辯を試みるあり會象亦箸戦に樂むもの、歌舞に狂するもの満座十二分の歡を尽し無事退散したるは初更の比

ても諸種團休より送別會の催ありしことなるが其重なる者を擧ぐれば鹿兒島市官民有志者、早稻田校友會、洋食會、鹿兒島新聞社員、在鹿兒島加治木出身者、日伯會等なりしど云ふ

貴族院本縣多額納稅議員の補欠選舉は去る四月十八日執行されしに岩元信兵衛氏當選せり、

◎多額納稅議員の補欠選舉

◎島津久賢男出發光景

前後三年を期し歐米諸國漫遊の壯舉を試みんとする島津男爵は、去る六月二十六日午后二時鹿港出帆の京城丸に便乗出发せられたり、當日は朝來猛雨沛然たりしも正午頃より漸く晴模様となりし爲め歡送の紳士は續々棧橋涯なる待合所へ押し寄せたれば定刻前待合所の内外は既に人を以て埋めたり、やがて男は令夫人並に

近親の人々に擁せられて商船會社支店樓上に入り暫時休憩中互に別を惜み、時刻漸く迫るや棧橋に入り來り夫人と共に多數の歡送者に對し一々挨拶をなし、乗船の上甲板に立て低回顧望せらるゝ中、汽笛は發船を報し今や繩を解かんとする時大久保中將の發聲にて男爵

の萬歳を三唱衆之に和して行色を壯にしたり、男は帽を打振りつゝ船と共に一步一步港外へ向へり、發船當時は幸い雨も小歇となり棧橋は歡送者を以て埋めたるが阪本知事、鮫島大將、島津各男爵、各代議士、文武高等官、各官衙局所長、實業家一般有志者並に知事及島津家各男爵夫人、大山始良郡長、加治木有志者及貴婦人等無慮五百有余名に達し、一時非常の雜沓を極めて稀なる盛送なりし

◎龍門庵

遊子異鄉にあり、うの生活にうの業務に或は生涯の運命開拓につとめて餘暇なきもの、時ありて一度望郷のおもひ油然として漢くや、息みがたなき胸中の琴線ろごろになつかしさ故里のかの山この水の思出に鳴り出でゝは、涙さしくまるゝ迄に思ひ至るゝは人情の然らしむる處也。

黒川岬頭の逍遙、網掛河畔の月、藏王岳の眺望、いづれか桜城に生れて他卿にある人をして望郷の思ひにたへざらしむる思出の種どならざるはなかるべけれども、わけて龍門の瀑ケろの最たるものなるべけれ。开はこの瀧はわが郷の山水に於て唯一の勝れたる矜りな

れば也。鞆轔直下幾十丈、風蓬然として到れば飛沫雲の如く湧き、白虹電の如く空に躍りて両涯の巒巔皆動くの壯光偉觀は、わが郷人の少時より親みて不言の間無限の感化をうけたるものにして、この壯觀は深くわれ等の胸裡に印象せられる遠く異郷にあるも尙ほ忘れ難き思出の種となる也。

されば廻に他關を辭して他郷に流遇し折に觸れ時につけ望郷のおもひ動かん人、今この瀧のいかにしてあらん、今日この頃の長雨にさこう水層のまさりたらんなど想ひめぐらす人の多かるべしと思ふ。

いでや、これ等の人々のために瀧の真景を巻頭に掲げ其近況を報じて、露許なりとも旅情を慰めんかな。

恨むらくはこの頃瀧つばの一丈餘りも埋まりて蒼々たる水深く藍を范えて瀧の主住むかとばかり慄然として魂消え神戻さし當年の佛また見る由もなく水心なき人と離容易に落ちたゞつ瀧の下に到り得べく、殊に水上を佐藤氏の水車場にひける故に水勢とても平時は僅に虧隙の間を傳ひ落つるのみなれども大雨沛然として降り水勢増らんか鞆々萬雷の如く落下する壯觀は依然としてろのかみの姿とかはらざる也。

生駒喜之助氏(秋原の産にして永く海軍にありし人) (一十四)

三年以前より瀧前の小丘ニ水神の祭ありし處リを拓き逶迤たる小阪を傳ふて頂に三棟の蕭洒たる亭を設け瀧門庵と稱し四方觀瀧の人に便し客の欲する處に應すべく酒菓さへもおきたり。

桜城の地、こゝばかり櫻島の姿を見ぬ山の峠の、さす日も洩らぬ杜の影、居ながらにして瀧と面相接するこの亭の名は、瀧の名と共に四方にひろびりて來遊する人々みな永に忘れ難き思出を胸に刻むべし。

全亭には

龍門のたさの水上仰き見て

のほりかねたる戀もするかな

すぐる四十年夏文學博士那珂通世氏來遊の折庵主のためにもされし自筆の偏額と、碩儒安井息軒のこの瀑を贊せし詩の偏額等掲げあり。

委細は更に稿を改めて次號に紹介せむ。

◎溝上翁に對する美譽

溝上忠友翁に關することは曾て本紙に掲げたる所翁のためにもされし自筆の偏額と、碩儒安井息軒のこの瀑を贊せし詩の偏額等掲げあり。

我村普通教育の創設に多大の功績あるは多言を待たず、翁は三十年の久しき一度も年賀の禮を欠くことなく時に親切なる通信を寄せられ其の我村及我校を思は

表し且つ其健康を祝する爲めに紀念品贈呈の企ありと
これ誠に美事と云ふべし余輩は翁の教訓を受けたる者
の直接と間接とを問はず必ず多數の賛同者あるを疑は
ず、因に紀念品は錫製茶器一組の豫定贊成者は參拾錢
より五拾錢迄の金（爲替金又は郵便切手）を相添へ八月
末日迄に發起人へ申込みべしと、

◎性應寺の御遠忌執行

當町性應寺にては去る五月十二日より同月十七日に至
る六日の間、宗祖大師、中祖大師の御遠忌並に見眞大

師六百五十年法要の執行あり、是に就き京都西派本願
寺よりは、態々連技法鼓院殿の下向わり是れか爲め各
驛より汽車割引往復乗車券の發賣等ありしこと故、幾
年稀なる賑ひなりき、因に先月來同寺構内に新設中の
千門徒の參佛日々御堂の内外に溢れ連日殷賑を極め近
庫裏は此程既に落成しけるが工事費凡壹萬余圓を要し
けること、結構頗る壯麗にして、十疊敷八間あり同
寺門徒の會集する外宴會を除き一般の集會にも便宜を

るゝ至情を察するを得、今や翁將に稀古の高齡に達せ
んとせらるゝにより鈴木正次郎原田定吉上野喜之助濱

與へん筈なりと云ふ。

◎桜街實業俱樂部の慰勞招待會

袖木代議士の慰勞會は夙に開催の筈なりしも南船北馬
席温まるの暇なき同氏の事故漸く去る五月廿四日同俱
樂部に於て新任長谷場郵便局長の招待會を兼ねて開催
せり、出席者は當町の有志三十有余名發起人總代濱田
彦藏氏開會の辭に次て袖木代議士の懇篤なる挨拶、長
谷場氏交通機關電話通信事務等に付き將來の希望に併
せて謝辞あり、終りて獻酬交々至り耳熱するに從て歎
談湧くが如く和氣洋々裡に散會せしは八時頃なりしと
云ふ。

◎入學と卒業

第七高等學校造士館入學者、田方貢（第一部乙）
全校卒業者、新名忠（第二部農科）
熊本高等工業學校卒業、木通芳彥（機械科）
東洋協會學校韓國京城分校卒業、上村直彌
東北帝國大學札幌農科大學卒業、曾木平八郎

◎鄉友會加治木部の昨今

鄉友會加治木部の情況はかつて本誌上に掲載せし事あ
りしが是迄同部の所有たりし帖佐村松原塙田は或る事
情の爲永く賣却の運びに至らざりしも今度從來の小作
人たりし松原の黒木某氏等の買受くる処となり右賣却
代金の中より近く設立さる可き郡立實業學校の敷地を

購入して寄附する事に決定したる由なるが該敷地は當
村田中馬場の東端授產場分場の西、石神安光氏宅の東
し隣れる田圃にて既に地主との交渉もまとまり居る事
とて寄附の手續だに終えなば郡に於ては本年末頃より
起工する事とならむ、而して鄉友會事務所と其敷地の大
部分とは之を當村に譲り受け修理の上は俱樂部とな
るの會合には狹隘なる料理屋の外地に適當なる會席無か
りし爲不勘不便を感ず居る際なれば全部竣工の上は當
地有識者多年の寄望も之りに依りて満足さるゝ事となるべし

◎產米検査實施

本縣にては本年七月一日より开始實施を行ひ當地方は、
米質の齊整を圖り其聲價を昂騰せしむるの手段として
あるべし

◎美事

先年來頗る廣大なる果樹園を開き、果物栽培に熱心に
從事せる曾木悌二氏は、自家の成績は元より近年果物
栽培の獎勵に伴ひ、今や當地の產額も相應に増加し來
りたれば、一は公衆旅客の便を計り、一は美果を世に
紹介して生産家の販路を開かんとの志望にて、當停車
場内に果物立賣人設置の願書提出中の處、此程許可さ
れて愈々實行するに至りしは實に彼我の便利なりと云
ふべし。

◎錦江義會決算報告

當町蒲生田通書籍文具商松田市藏氏は明治十一年以來
今日に至る迄三十二年間該營業を繼續し逐年繁昌を來
せるは村學校の愛顧に外ならずとの意味を以て此程市
藏氏は金五拾圓全人妻志計子は金參拾圓を學校基本財
產の内に寄附せられしは奇特と云ふべし

深かき都大路の其れに比して塵外の詩境と申すも敢て
溢美の言には無御座候。(菱刈より綠波生)

▲千鳥庵水巴女史の事に關し御存知の方は編輯部迄御
知らせ下され度し(編輯小僧)

▲六ヶ敷い本や筆とばかり親んで理想や何んかんと高
尚なこと許いつて居る先生達一夜脚を濱町通に運んで

半夜をろこに過して見給へ、人生の暗黒面、志ある者
人道のため實に涙を以て奮起せざるべからざるである

生きた教訓を自覺するであろう。高壇の上に鹿瓜らしく止まつて入らッしやるお寺の坊さんではない、末世

の耶穌宗でもない、生きた人世宗り活氣を帶びた新時代の救世主が要求されてゐる事を知るであろう(迷羊生)

▲さらぬだに淋しい當町は夜になるとシーントして物語の様だ。網掛橋の両側を初め各店舗の軒燈設置を一日も早く實現して貰らいたさもんだ(時代の子)

▲白鳥兄え、「螢狩り君おはさばと思ひけり(みどり)」
止まつて入らッしやるお寺の坊さんではない、末世



城

會員動靜

報

○豫備陸軍二等主計岡山與三次氏は熊本に点呼の序を

以て久し振りに歸省中の處此程寄留地美津濱へ向

出發

○東京府廳屬法學士川上親俊氏は徵兵検査受檢の爲め歸村の處輜重輸卒に合格したるも入營期は十二月な

るを以て一先づ鄉任せらる

○本誌編輯員牧清虎氏は去る五月五日種子島の人越山

愛子娘と合衾の式を挙げらる

○陸軍歩兵中尉日高七之丞氏は此程休職

○特別會員法元定一郎は去る四月鹿兒島三州社幹事に

任せられ在社中

○今春山口高商卒業の壹岐準太氏は北海道拓殖銀行に入れり

○曩に盛岡高農林卒業の池田彪一氏は東京警視廳獸醫

拜命

○廣島縣技師たりし山内修一氏は四月福岡縣技師へ轉

任

○會員竹下貞一氏は今般知覽村松ヶ浦小學校補習科教

員拜命

○會員原田武雄氏は清水村濱田氏令嬢と婚約整へりと云ふ

○清國大連市衛生組合事務員たりし岩崎剛氏は臺灣彰化製糖會社へ轉勤

○奉縣農會常任幹事として八年の久しき間農界の爲め尽瘁されたる特別會員新納平十郎氏は此程職を辞して歸村し目今果物栽培に從事中なり

○韓國京城總稅務司廳員たりし前田武雄氏は鎮南浦稅關へ轉任

○今春長崎高商卒業の山崎秀清氏は去る五月中渡韓

○會員松田徳二氏は過般來在京中の處今般本郷追分町に旅館開業の由

○特別會員壹岐休太郎氏は過般來柳田馬場裁判所前に筆紙墨文具店開業

○會員佐藤淺太郎氏夫人ワカ子は先頃來病氣中の處此程遂に死亡

○會員の轉宿左の如し

東京市赤坂青山高樹町十二番地八號 原田 維織君

第八條 幹事編輯員會計は會長の指揮に従ひ各担当

第五條 本會に會長一名、商議員若干名、幹事若干名、編輯員若干名及會計若干名を置き、各二ヶ月年

を以て任期とす、但し重任することを得、

の事務に從事す、

(七千四)

委員選舉、會長より左の諸氏を推選されたり、

幹事 本田 克 美坂吉之助 原田 定吉

上野喜之助

岩城 豊次

長谷場唯二

曾木 悅二

法元 一郎

岡山 猪治

宇都宮虎二

濱田 彥藏

壹岐休太郎

袖木繁次郎

前田 豊彦

二見 武雄

牧 清虎

森山 藤次

比志嶋源助

溝口 近

濱田 剛平

宮地直太郎

津崎 直志

城川甚之丞

米良直太郎の四君

編輯員本田 克

上野喜之助

長谷場唯二

曾木 悅二

前田 豊彦

濱田 剛平

岩城 豊次

城川甚之丞

津崎 直志

牧 清虎

以下二名は會計兼務

宇都宮虎二

岡山 猪治

城川甚之丞

米良直太郎の四君

一金六圓

中摩順藏君、一金五圓

内野源次郎君

小計金拾壹圓

右書目芳名を掲げ其厚意を謝す、

通計金九百九拾八圓七拾貳錢也

雜誌代領收

一金貳圓壹錢、小野助四郎君

一金壹圓宛、大山吉虎、木原彥二の二君

一金八拾錢、白尾孫次郎君

一金六拾錢宛、米良喜内、有川貞治、岡山秀延、木場

仁之助、美坂助七、谷初次郎、松田弓之助、の七君

一金五拾錢宛、前田喜之助、伊地知新、上床喜之丞、

米良直太郎の四君

一金參拾錢宛、石原市二、津崎直志、濱田直一、岡山

龍太郎、日高良太郎、岩下直助の六君

一金貳拾錢宛、溝口直記、伊集院秀彦の二君

一金貳拾錢宛、濱田剛平

小計金拾參圓貳拾壹錢

通計金貳百六拾九圓四拾八錢也

寄贈書目

一、The Australasian

一、加奈陀同胞發展史

一、加奈陀鹿兒島縣人會々則

全

湯田 三 次君

小野 助四郎君

鷹田 三 次君

◎同鄉會規則摘要

明治四十二年七月十一日印刷
明治四十二年七月十五日發行

非賣品

鹿兒島縣姶良郡加治木村反土九十四番戶

第一條、本會は加治木同鄉會と稱し加治木人及加治木に緣故ある者を以て之を組織す、
又は雑誌を發刊して會員に貢獻する爲め定期に總會を開き
第三條、本會の主旨を貫徹する爲め定期に總會を開き
但雜誌の配付は當分の間會費として毎月金五錢を
醸出する者及第十六條に該當する會員に限る、

第十四條、本會は雑誌「桝城」を四季に一回づゝ之を發行す

第十六條、本會に金五圓以上寄附したる者は特別會員とす、

會告

一、次號(第十號)の原稿〆切は九月十五日限りに御座候

一、轉宿の方は其都度御一報煩はし度候

印刷所 北川右之丞

鹿兒島縣鹿兒島市山下町百七十一番地

發行所 加治木同鄉會事務所

鹿兒島縣鹿兒島市山下町八十九番戶

鹿兒島新聞社加治木支局内

會費滯納者多し至急御納付を乞ふ

印刷所 鹿兒島新聞社